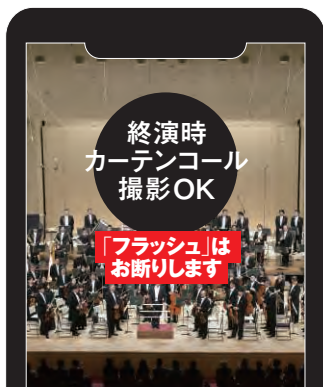




# 5

May 2023  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo





終演時のカーテンコールを撮影していただけます

コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。撮影前にスマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください



スマートフォンのフラッシュを「オフ」にする方法例

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは45ページをご覧ください



こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

### お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- ・会場内では、マスク着用を推奨します。マスクを着用されない場合は、会話をお控えいただき周囲の方へのご配慮をお願いいたします。
- ・手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- ・感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- ・入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさ

せていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- ・ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- ・「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用をお願いいたします。
- ・サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者への入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会もお断りいたします。

# PHILHARMONY

---

## CONTENTS

MAY 2023

# 5

- 3 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 8 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 13 [公演プログラム] **Cプログラム**
  
- 17 [シリーズ] **N響百年史** | 第37回 | **コロナ事件** 片山杜秀
  
- 21 2023年6月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 23 チケットのご案内(定期公演 2022年9月~2023年6月)
- 24 2022-23定期公演プログラム
- 25 2023-24定期公演プログラム
- 31 チケットのご案内(定期公演 2023年9月~2024年6月)
- 32 特別公演／各地の公演
- 38 特別支援・特別協力・賛助会員
- 42 NHK交響楽団メンバー
- 43 Information
- 44 曲目解説執筆者
- 45 みなさまの声をお聞かせください!
- 46 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

### Artist Profiles & Program Notes

- 47 Program A
- 51 Program B
- 55 Program C
  
- 58 The Subscription Concerts Program 2022-23
- 59 The Subscription Concerts Program 2023-24
- 62 役員等・団友

# Special Thanks




## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて  
©Lukas Beck

PROGRAM

A

第1983回

NHKホール

5/13 [土] 6:00pm

5/14 [日] 2:00pm

指揮

下野竜也

ヴァイオリン

バイバ・スクリデ★

コンサートマスター

郷古 廉

## ラフマニノフ

歌曲集 作品34 —

「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、

「ヴォカリーズ」[9']

※指揮者の意向により2曲続けて演奏します。

## グバイドゥーリナ

オッフエルトリウム★[38']

— 休憩(20分) —

## ドヴォルザーク

交響曲 第7番 二短調 作品70[37']

I アレグロ・マエストーン

II ポーコ・アダージョ

III スケルツォ:ヴィヴァーチェ

IV 終曲:アレグロ

※演奏時間は目安です。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは45ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## Artist Profiles

## 下野竜也(指揮)



下野竜也は1969年生まれ、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室に学び、シエナのキジアーナ音楽院で指揮のディプロマを取得、さらにウィーン国立演劇音楽大学に留学して研鑽を重ねた。2000年の東京国際音楽コンクール、翌年のフランスのブザンソン国際指揮者コンクールにともに優勝して注目を浴び、以後内外の楽団を指揮。これまで読売日本交響楽団正指揮者および首席客演指揮者、広島ウインドオーケストラ音楽監督、京都市交響楽団常任客演指揮者および常任首席客演指揮者などを歴任、2017年からは広島交響楽団の音楽総監督としてこの楽団の発展に大きく貢献している。N響とは2005年の初共演以来、これまで定期公演を含めて数多く共演を重ねてきた。

正面から作品に向かい合い、優れたバトン技術と表現力でもってその真価を伝える下野の音楽作りは高い評価を得ており、レパートリーも古典から現代曲まで幅広い。これまで日の目を見なかった秘曲の発掘にも積極的で、プログラムも時に一見奇抜なようでありながら、そこに何らかのメッセージが込められている。今回も前半はともに宗教的な内容を持つラフマニノフの歌曲編曲とグバイドゥーリナの協奏作品を通して、今の混迷の時代における下野の切実な訴えが窺える。後半は彼の十八番のドヴォルザーク。下野は読響時代にドヴォルザークの交響曲全曲を指揮しているほどにこの作曲家に愛着を持っており、今回も名演が期待できよう。

[寺西基之／音楽評論家]

## バイバ・スクリデ(ヴァイオリン)



ラトヴィアの音楽一家の生まれ。リガの音楽学校とロストックの音楽院で学ぶ。2001年のエリーザベト王妃国際音楽コンクールで第1位を獲得。ソリストとして、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ボストン交響楽団、シカゴ交響楽団などのオーケストラと共演。2019年のライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の来日公演でのシヨスタコーヴィチ《ヴァイオリン協奏曲第1番》の情感

豊かな演奏が記憶に新しい。また、モーツァルト、シューマン、ブラームス、チャイコフスキー、ストラヴィンスキー、ヤナーチェク、シマノフスキ、シベリウス、ニールセン、バルトーク、コルンゴルトなど、数多くの協奏曲の録音を残す。近年はグバイドゥーリナの作品に取り組み、2021年9月、ゲヴァントハウス管弦楽団のシーズン開幕演奏会で《三重協奏曲》の独奏を務め、同年11月、グバイドゥーリナの90歳を祝して同団と《オフフェルトリウム》を共演。同年12月にはhr交響楽団とヴァイオリン協奏曲《対話：私とあなた》を演奏している。NHK交響楽団とは2012年、2018年に共演。定期公演へは今回が初登場となる。

[山田治生／音楽評論家]

ロシアに生まれるも、革命とともにアメリカに渡り、生涯、祖国には帰らなかったラフマニノフ(1873～1943)。旧ソ連内のタタール共和国に生まれ、モスクワで学んだのち、ソ連崩壊とともにハンブルクに移住したグバイドゥーリナ(1931～)。オーストリア帝国内に生まれ、イギリスやアメリカでも活躍したのちに、チェコ独立を夢見ながらプラハで没したドヴォルザーク(1841～1904)。3人の生涯を辿ってみると、時代の違いはあれ、「移動」の人生であったことがわかる。彼らの音楽が時に見せる、どこか寂しげな望郷の表情は、そんな移動が生み出したものかもしれない。

## ラフマニノフ

### 歌曲集 作品34 —「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、 「ヴォカリーズ」

セルゲイ・ラフマニノフといえば、誰もが華麗なピアノ作品の数々を思い浮かべるはず。しかし同時に、彼は生涯に80曲以上の歌曲を残した「歌曲作曲家」でもあった。いや、数々の合唱曲やオペラの存在を鑑みるならば、むしろ彼の本質は「歌」にあり、この歌がピアノや管弦楽に投影されて、あのうねるような響きの作品群が書かれたのだともいえよう。

14曲からなる《歌曲集 作品34》のうち、本日はここから2曲がオーケストラ編曲で奏される。まず、歌曲集の第6曲〈ラザロのよみがえり〉。原曲はごく素朴な旋律だが(ピアノも簡単な和音を淡々と鳴らすのみ)、その民謡のような手触りが、ラザロの復活という奇跡を目の当たりにした民衆の思いを伝える。指揮者の下野竜也によるオーケストラ編曲版は、管楽器を生かした荘厳な雰囲気の特徴。原曲はヘ短調だが、次曲にあわせホ短調に変えられている。一方、花形歌手ネジダノワのために書かれた、終曲〈ヴォカリーズ〉は、誰もが知る人気曲。母音唱法が旋律そのものの美しさを際立たせる音楽であるから、オーケストラでも美点はまったく減じないだろう。こちらは作曲者ラフマニノフ自身のオーケストラ編曲版である。

作曲年代	[ラザロのよみがえり] 1912年 [ヴォカリーズ] 1912年、1915年改訂(1915年作曲の説もある)
初演	[ラザロのよみがえり(下野竜也管弦楽編曲版)] 2023年5月13日、下野竜也指揮、NHK交響楽団 [ヴォカリーズ(セルゲイ・ラフマニノフ管弦楽編曲版)] 不明
楽器編成	[ラザロのよみがえり] フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、弦楽 [ヴォカリーズ] フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦楽

## オッフェルトリウム

音楽史は、しばしば「作曲家の歴史」になりがちだ。しかし、ひとりの演奏家が歴史を動かすこともある。ギドン・クレーメルが1980年代に果たした役割は、まさにそうしたものだ。

ソ連を代表するヴァイオリニストとして活躍していたクレーメルは、1980年に西ドイツに居を移す。面白いのは、その後の彼が同時代のソ連作曲家たちを次々に紹介していったことだ。自由を得たからこそ、祖国の音楽を「西側」に紹介せねばならないという義務感を感じていたにちがいない。

折しも前衛音楽がひとつの曲がり角を迎え、疲弊していたなか、クレーメルが紹介する「新しいソ連音楽」は、一挙に注目を集めることになった。1931年生まれのスフィア・グバイドゥーリナも、こうしてわれわれの前に姿をあらわした作曲家である。

ソ連内のタタル共和国で育った彼女は、当時支配的だった社会主義リアリズムの理念にはどうしても馴染めなかったという。「私たちはアイヴスやケージを、こっそりと勉強していました」と述べる彼女は、必然として体制側と多くの軋轢を生むことになった。

しかし、1981年にクレーメルによってウィーンで初演された《オッフェルトリウム》によって、彼女の名は一気に世界に知られることになる。時として支離滅裂といいたくなるほど奔放であるにもかかわらず、前衛のさまざまな技法とはまるで異なった「言語」に貫かれた音楽に、誰もが驚愕したのだ。

まず、最初に響いてくるのは、バッハ《音楽のささげもの》の主題。この主題は全曲を統一する原理として提示されているが、そこから次々に異なった音の風景があらわれる。やがて音楽はゴツゴツとした突起を残しながら進んでゆき、戦後の音楽を輪郭づけていた抽象性に、いたるところで反発する。なにより印象的なのは、最後の8分、突如として音楽が調性的に響きだし、独奏ヴァイオリンが祈りの音調を奏で始める部分。この敬虔で無垢な響きは、それまでの現代音楽ではけっして聴くことのできなかつたものだ。

作曲年代	1979～1980年作曲、1982年、1986年改訂
初演	1981年5月30日、ウィーン、レイフ・セーゲルスタム指揮、オーストリア放送交響楽団、ギドン・クレーメル独奏による
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、Esクラリネット1、ファゴット2、ホルン3、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、テンブル・ブロック、タムタム、グロッケンシュピール、大太鼓、シロフォン、マリンバ、ムチ、ヴィブラフォン、クロタル、チューブラー・ベル、小太鼓、サスペンデッド・シンバル、ウッド・ブロック、ボンゴ、トムトム、グイロ、ハーブ2、チェレスタ1(ピアノ1)、弦楽、ヴァイオリン・ソロ



## 交響曲 第7番 二短調 作品70

アントニン・ドヴォルザークの後期交響曲のうち、《第9番》には「新世界から」というタイトルがつけられており、《第8番》には（内容とは全然関係ないのだが）「イギリス」というあだ名がある。では、もしもこの《第7番》に愛称をつけるとしたら？

筆者の頭に浮かぶのは「ブラームス」という語。もちろん、曲には濃厚なチェコの香りがあるし、時にワーグナー風の部分も散見される。それでもこの楽曲の堅固な構成感、は、なによりブラームスを思わせるのだ。

考えてみればドヴォルザークの創作は、ブラームスとワーグナー、そしてスメタナという3人の巨人を眼前にして紡がれたものではなかったか。19世紀のドイツ音楽はワーグナーとブラームスの両端で揺れていたが、ドヴォルザークは若い頃からどちらにも惹かれており、結果としてその音楽には標題音楽・絶対音楽という枠組みを越えた柔軟性がもたらされることになった。ここにスメタナ仕込みの民族色が加わったときに、「ドヴォルザーク」という稀有な多面体が完成したといつてよい。

《第7番》の作曲時期は1884年から翌年にかけて。重要なのは、彼が前年の1883年にブラームス《交響曲第3番》の初演を聴いていることだ。実際、この2曲はさまざまな共通点がある。例えばブラームス作品ではへ長調とへ短調の間を旋律がさまようが、ドヴォルザーク作品も、二短調にはじまり、最後には二長調へと到達して幕を閉じるのである。

第1楽章(アレグロ・マエストロ)は、ヴァイオリンとチェロが低音部でうごめく冒頭部、一瞬で変へ長調へと移る鮮やかな転調、ホルンとオーボエが乱舞する経過句、さらには半音階を経て到達する第2主題部……どこをとっても手が込んでおり、作曲者の意欲が漲<sup>みなぎ</sup>っている。

第2楽章(ポーコ・アダージョ)も、のどかな緩徐楽章のようであり、複雑な響きと構成を持つ。半音階を駆使した、意外なほどに深刻な陰影が特徴。

第3楽章(ヴィヴァーチェ)は、スケルツォ。4分の6拍子という拍子の特質を生かしながら、さまざまなリズムが戯れ、乱舞する。突如として長調に転じる中間部の色彩も魅力的。

第4楽章(アレグロ)では、冒頭に奏される主要主題が曖昧な輪郭を持っているのに対して、一区切りついでから弦楽器のザクザクした響きで示される経過句が真の主題のようにふるまうのが面白い。そして曲尾、のぼりつめた旋律が突如として長調の響きにかわり、驚きのなかで全曲が閉じられる。

作曲年代	1884～1885年
初演	1885年4月22日、ロンドン、作曲家自身による指揮、ロンドン・フィルハーモニー協会による
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

PROGRAM

B

第1985回

サントリーホール

5/24 水 7:00pm

5/25 木 7:00pm

指揮 ファビオ・ルイージ

ホルン 福川伸陽

コンサートマスター 篠崎史紀、郷古 廉

### ハイドン

交響曲 第82番 ハ長調 Hob. I-82

「くま」[27']

- I ヴィヴァーチェ・アッサイ
- II アレグレット
- III メヌエット・トリオ
- IV 終曲:ヴィヴァーチェ

### モーツァルト

ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447

[16']

- I アレグロ
- II ロマンズ:ラルゲット
- III アレグロ

—— 休憩 (20分) ——

### ベートーヴェン

交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」

[40']

- I 田舎に着いたときに、  
人々の心に生まれる心地よく朗らかな気持ち:  
アレグロ・マ・ノン・トロッポ
- II 小川のほとり:アンダンテ・モルト・モート
- III 田舎の人々の楽しいつどい:アレグロ
- IV 雷と嵐:アレグロ
- V 牧歌 嵐のあとの神への感謝に満ちた、  
寛大な気持ち:アレグレット

※演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは45ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## ファビオ・ルイーゼ (指揮)



©SHINJI

1959年、イタリア・ジェノヴァ生まれ。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。ハイドン、モーツァルトからマーラー、R. シュトラウスまでドイツ系を中心とする幅広いレパートリーで、丹念に磨き込んだ「歌」と、圧倒的な情熱で聴き手を虜にしている。

これまでにメトロポリタン歌劇場首席指揮者、チューリヒ歌劇場音楽総監督、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR (中部ドイツ放送) 交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。また、フィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のレコーディングではグラミー賞を受賞した。

## 福川伸陽 (ホルン)



今をときめくホルン奏者で、ソロ、多彩な室内楽、オーケストラとの共演、内外の音楽祭で活躍。リッカルド・ムーティやパーヴォ・ヤルヴィも賛辞を惜まない管楽器のトップアーティストのひとりである。モーツァルトのホルン協奏曲はもちろん十八番で、2021年2月に鈴木優人指揮で全曲録音を行なった。武蔵野音楽大学で学び、在学中から日本フィルハーモニー交響楽団で演奏、その後入団。首席奏者に就任後、2006年イギリスに留学。当時ロンドン交響楽団の首席奏者だったデーヴィッド・バイアットに師事したほか、ロンドン交響楽団に客演した。2008年、第77回日本音楽コンクール〈ホルン部門〉で第1位に輝く。2013年、NHK交響楽団に入団。その後首席奏者に就任し、2021年3月まで重責を担った。2019年1月には、ロンドンの名門ウィグモア・ホールでリサイタルを開催している。

ナチュラルホルン／バロックホルンの名手でもあり、バッハ・コレギウム・ジャパンなどに出演。また久石譲、藤倉大ほか、多くの作曲家が福川に曲を献呈している。木管楽器とピアノによる「東京六人組」のメンバー。国際ホルン協会評議員、東京音楽大学准教授。

[奥田佳道／音楽評論家]

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン……彼らは「ウィーン古典派」を代表する3人と言われる。ウィーンを舞台に、均衡美を旨とする器楽曲を次々と生んだ大作曲家たち。だが「ウィーン古典派」という概念自体、20世紀初頭に確立されたものにすぎない。本日演奏される3曲も、そこには作曲者ごとに異なるさまざまな創意工夫が刻まれている。またそれこそが、世界有数の国際都市ウィーンの名前を冠した「ウィーン古典派」の本質なのだ。

## ハイドン

### 交響曲 第82番 ハ長調 Hob. I-82「くま」

1780年代、フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732~1809)は転機の中にあつた。彼は長年にわたり宮廷楽長として、ハンガリーの侯爵エステルハーザ家に仕えていたが、その声望がヨーロッパ中に轟きつつあつたからである。そうした状況の中で、新作交響曲を書いてほしいというパリの新設オーケストラからの依頼に応じて生まれたのが、いわゆる「パリ交響曲集」だ。当時は交響曲も含めた器楽曲を6曲セットで出版するという慣習があつたため、「パリ交響曲集」も6曲から成り立っている。当作品は、その最初に位置するもの。つまりトップバッター的な役割として、刺激に慣れっこになっているパリの聴衆の心を一挙に掴むことが必要だつた。

そこで、旺盛な実験精神の持ち主だつたハイドンは、才気あふれる創意工夫をこの交響曲に散りばめることとなる。ハ長調という祝祭性の強い調性を基に、華やかさと勢いを具えた第1楽章。しかも3拍子を基本としているため、音符の少ない弱奏の部分になると、一瞬メヌエツトかと錯覚してしまうような仕掛けに満ちている。第2楽章はロンド形式を基としながら、そこに変奏曲の要素が入り込む。

正真正銘のメヌエツト——といっても偶数の偶数倍ではなく、偶数の奇数倍のフレーズが用いられ、聴く者を不意打ちする効果も満点だ——が繰り上げられる第3楽章を経て、いよいよ第4楽章。民俗音楽の代表格であるバグパイプのような低音の響きに導かれ、さまざまな旋律が疾走する。なお「くま」という呼称は、バグパイプに似た響きが、熊に芸をさせる熊使いの鞭の音をも連想させるところから来たもの。ハイドン自身の命名ではないものの、当時人気を博していた愉悦とスリルに満ちた曲芸が、次々と音楽が変化するこの楽章になぞらえられたのは面白い。

なお当作品で用いられる金管楽器だが、ハイドンは高い音の出るC管のもの、という指定のみをおこなっている。その情報を基に、本日はHaydn-Mozart-Press版の楽譜が使用され、第1楽章はトランペットのみ、第2楽章はホルンのみ、そして第3・4楽章はトランペットのみが用いられる。

作曲年代	1786年
初演	1787年、ティュリュリー宮殿内の100人のスイス人ホール、ジョゼフ・ブローニユ・シュヴァリエ・ド・サン・ ジョルジュ指揮、コンセール・ダ・ロージュ・オランピック
楽器編成	フルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

## モーツァルト

### ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)は、何人もの優秀な演奏家と交友関係を結んだ。そのひとりが、ウィーンやザルツブルクで活躍したヨーゼフ・ロイトゲーブ(1732~1811)。ハイドンにも才能を評価された彼は、モーツァルトと年齢の差を越えて友情をはぐくみ、またその演奏を想定してモーツァルト自身、数曲のホルン協奏曲を書いた。

なお「第3番」という番号を与えられているこの曲だが、4曲あるモーツァルトのホルン協奏曲中、最後に書かれたことが、現在では定説となっている。作曲は1787年のこと。モーツァルトの作品が壮絶な<sup>そな</sup>凄み<sup>な</sup>を具えるようになった時期と重なる。たしかに当協奏曲もその凝縮力からして、一連のホルン協奏曲の中でも抜きん出た存在だ。

なおこの作品、モーツァルトの作品であることは証明済みなのだが、彼がそれを自らこまめにつけていた自作の作品目録に書き込んでいない、という謎がある。またそこから、単独で先に作られていた第2楽章あるいは第3楽章に加え、ロイトゲーブの演奏会に際して第1楽章を付けた、という説もある。

いずれにせよ、クラリネットとファゴットを用いたオーケストラ(この楽器編成も、モーツァルトのホルン協奏曲の中では唯一のものである)の温かな響きは、独特のものだ。またこの響きに包まれて、独奏ホルンが儂く美しい旋律を奏でる第2楽章は、当作品の白眉となっている。「ロマンス」と銘打たれているだけのことはあって、モーツァルトが得意とする豊かな歌心を隔々まで宿した美しい無言歌。それを、もともと狩猟楽器だったホルンが繊細に奏でるといふ、叙情性と実験精神が一体となった楽章だ。

そしてこの楽章を扇の要として、両端楽章が独自の光を放つ。ソナタ形式に基づき、展開部で一聴する以上に複雑な和声を用いられている第1楽章。またホルンの出自を思わせる狩のリズムを彷彿させながらも、第2楽章の冒頭の旋律が引用される第3楽章と、15分ほどの演奏時間の中に聴きどころが満載だ。

作曲年代	1787年
初演	1787年頃、詳細は不明
楽器編成	クラリネット2、ファゴット2、弦楽、ホルン・ソロ

## 交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

日本語では「田園」と訳されるが、原題は“Pastorale”。古代ギリシアでは「牧歌劇」、キリスト教においてはイエスの「降誕劇」をも意味していた。またそこから、荒野で羊の番をしていた牧人たちが、馬小屋で生まれたばかりのイエスを拝みに来る場面で、6/8拍子に基づく温かく安らぎに満ちたPastorale(「田園曲」)も生まれるようになった。

このPastoraleと呼ばれる音楽が、Pastoraleと銘打たれた当交響曲の第5楽章に登場する。ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770~1827)自身によって「牧歌——嵐のあとの神への感謝に満ちた、寛大な気持ち」という標題が書き込まれ、Pastoraleの特徴である6/8拍子の穏やかな楽想が基本となっている。さらにPastoraleのもうひとつの意味、古代ギリシアの牧歌劇では、伝説の理想郷アルカディアで牧人たちが角笛を鳴らすなか、人類の失った究極の幸せが満ちているといった情景が出現する。しかもこの古代ギリシアだが、ベートーヴェンが生まれ育った時代＝市民階級が勃興し近代民主制が求められた時代には、古代民主制が花開いた時代としても注目を浴びていた。

なお本作の特徴として、作曲者自身の書いたプログラム＝標題を通じ、音楽が何かある情景を描いているということが挙げられる。しかもそこには、今記したように、単なる絵画的描写以上の意味合いが具わっている。第1楽章の標題「田舎に着いたときに、人々の心に生まれる心地よく朗らかな気持ち」。これは内面描写であって、「自分が何をを感じるか」という問題意識がないと出てこないものだ。同じことは、第2楽章にも当てはまる。この楽章の標題が「小川のほとり」であり、楽章の最後には鳥の鳴き声が横されるといった具合に、絵画的描写の要素が目立つものの、刻々と変わる小川のせせらぎは、それを捉える作曲者自身の意識を顕著に投影したものだ。これに続いて登場するのは、トータルで15分を超えようかという第3・4・5楽章。しかもこれらの楽章は切れ目なく演奏され、暗から明へという流れが明確に現れている。いや、正確に言えば第3楽章の束の間の〈明〉＝「田舎の人々の楽しいつどい」が、第4楽章の〈暗〉＝「雷と嵐」によって破壊されたあと、件の第5楽章つまりは究極の救いとしての〈明〉が訪れる、という構成だ。

アルカディアにおける究極の幸福、あるいはイエスの誕生を通じた人類救済という、ヨーロッパの精神史を色濃く宿したPastorale。それは、ベートーヴェンにおいて、虐げられた人々(＝市民階級)が幸せを手に入れるという革命的理想にまで変容を遂げた。

作曲年代	1807~1808年
初演	1808年12月22日、アン・デア・ウィーン劇場、作曲者自身の指揮、アン・デア・ウィーン劇場の管弦楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ1、弦楽

PROGRAM

C

第1984回

NHKホール

5/19 金 7:30pm

5/20 土 2:00pm

指揮 ファビオ・ルイージ | プロフィールは p.9

ピアノ パスカル・ロジエ

コンサートマスター 篠崎史紀

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

19日(金)6:45pm~/20日(土)1:15pm~

フルート: 神田寛明 ヴァイオリン: 大鹿由希 ヴィオラ: 佐々木 亮 チェロ: 中 実穂 ハープ: 早川りさこ  
ロパルツ/前奏曲、海とシャンソン—第1曲「前奏曲」、第3曲「シャンソン」

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

## サン・サーンス

ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103  
「エジプト風」[27']

I アレグロ・アニマート

II アンダンテ

III モルト・アレグロ

## フランク

交響曲 二短調[37']

I レント—アレグロ・ノン・トロppo

II アレグレット

III アレグロ・ノン・トロppo

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは45ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## パスカル・ロジェ (ピアノ)



明るく澄んだ音色と華やかさ、そして優美さが際立つフランスの名手のパスカル・ロジェが、久しぶりにN響定期公演に登場する。パリの音楽一家のもとに生まれ、1971年ロン・ティボー国際コンクールを制して以来、ロジェは、ソリストとして世界各地で活躍するほか、卓越した室内楽奏者として長らく名を馳せてきた。初めてのN響定期公演での演奏は、1977年。外山雄三の指揮でラヴェルの協奏曲を披露した。その後、サン・サーンスの《第2番》、そしてプーランクの《朝の歌》といったレパートリーで定期公演に出演し、ファンを沸かせてきた。古典から現代まで彼の守備範囲は広いが、<sup>おほこ</sup>十八番はやはりフランス近代音楽ではないだろうか。今回のファビオ・ルイージとの共演では、サン・サーンスの《ピアノ協奏曲第5番「エジプト風」》が選ばれた。モーツァルトばりの神童として知られ、名ピアニストにして、器楽からオペラ、映画音楽に至るまで多作家だったサン・サーンスだが、《エジプト風》はまばゆい技巧と洒脱な響きに彩られた名作。まさにロジェの本領が発揮されるプログラムといっても過言ではない。

[伊藤制子／音楽評論家]

## Program Notes | 野平一郎

2022年9月にNHK交響楽団首席指揮者に就任したファビオ・ルイージによる、フランス音楽のプログラム。しかもこの2作品はほぼ同時代、19世紀末に作曲されたもの。一方は1888年、他方は1896年と、10年と違ってはいないのであるが、様式や表現が全く異なり、この時代のフランス音楽の幅の広さを見せている。ファビオ・ルイージと、フランス近代作品に特にその理想の演奏解釈を見せるパスカル・ロジェによって、この2作品がどのように料理されるのか聴きものである。

### サン・サーンス

## ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」

フランスの作曲家には同時にオルガニストないしピアニストの経歴を持ち、それが作風に大いに影響を及ぼす場合が多い。通常はこのどちらかであるが、シャルル・カミーユ・サン・サーンス(1835～1921)は、ピアニストでオルガニストという2つの顔を持つ作曲家である。この時期の作曲家としては珍しく古典的な佇まいを持った伝統的な作風になっているのが特徴で、交響曲や各種楽器のための協奏曲やソナタ、室内楽などが有名だが、彼の作品には古典的な音楽の枠にとどまらない側面も多い。特にオペラではこの



時代の作曲家らしくロマンティックな表現者としての才能を見せ、また世界初の映画音楽の作曲者でもある。彼の作品にはピアノと木管三重奏のための《デンマークとロシアの歌による奇想曲》、ピアノと管弦楽のための《幻想曲「アフリカ」》、管弦楽のための《アルジェリア組曲》、ヴァイオリンと管弦楽のための《アンダルシア奇想曲》など、異国風タイトルを持った狂詩曲風な作品も多い。しかしそれは単にエキゾティシズムを狙った、絵のような遠方に憧憬を表しているものではなく、実際に見聞したものがほとんどである。この《ピアノ協奏曲第5番》も、エジプト滞在中に書かれたことから「エジプト風」と呼ばれ、特に第2楽章に独特の旋法やリズムを用いてエジプトの情緒を醸し出したり、あるいは実際にヌビア地方の旋律を引用したりしている。サン・サーンスがベートーヴェンとモーツァルトのピアノ協奏曲のソリストとしてデビューしたのは10歳の時という早熟ぶりであったが、1896年にデビュー50周年を祝うコンサートが開かれ、その機会に作曲されてコンサートで作曲家自身がソロを受け持ったのが、この協奏曲である。古典的な形式感に寄り添いながらも、より自由な成熟した境地を見せ、またピアノ・ソロの華麗な名人芸にも事欠かない。第2楽章の独特な和声感と、前後の楽章のより古典的な響きの対照も鮮やかである。

第1楽章 アレグロ・アニマート、ヘ長調。

第2楽章 アンダンテ—アレグレット・トランクイロ・クアジ・アンダンティーノ、ニ短調。

第3楽章 モルト・アレグロ、ヘ長調。

作曲年代	1896年
初演	1896年6月2日、作曲家自身のピアノ独奏、ポール・タファネル指揮、パリ音楽院管弦楽団、サル・ブレイエル
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、タムタム、弦楽、ピアノ・ソロ

## フランク

### 交響曲 二短調

セザール・フランク(1822~1890)は、作曲家であると同時にオルガニストである。ピアノや室内楽、オーケストラと、どのジャンルの作品の書式や響きにもオルガニストとしての経験が色濃く反映されていて、どちらかといえばピアニストであったサン・サーンスに比べると、対照的な作風である。実はサン・サーンスとフランクのオルガンの教師は同じ人物(フランソワ・ブノワ)であったし、2人とも1871年の国民音楽協会の創設に関わっているが、作風の相違とも相まって、2人はあまり仲が良くなかったと言われている。サン・サーンスもフランクも共に早熟だったが、現在フランクの作品としてよく演奏されているものは、1884年以降に書かれた最晩年の作品で、この《交響曲二短調》をはじめ、ピアノ

C

とオーケストラのための《交響的変奏曲》、《ヴァイオリン・ソナタ》、《弦楽四重奏曲》、そして《前奏曲、コラールとフーガ》などがある。こうした晩年の作品には循環形式という技法が使われ、多くの主要モチーフが全曲を統一し、ドイツ・オーストリア音楽に影響された緊密な構成感を持っているのが特徴である。またフランクの音楽はその和声が独特の響きを持っている。リエージュ（ベルギー）生まれということも関係しているかもしれないが、フランスの音楽としては、例外的に極めて重厚な響きに満ちている。《交響曲ニ短調》は、フランクが学生時代に書いたものを除けば唯一の交響曲であり、1887年から1888年にかけて作曲され、1889年に初演された。本作を書くにあたってニ短調を選択したことから、ベートーヴェンの《第9交響曲》の影響も大きいと思われる。

**第1楽章** レントーアレグロ・ノン・トロppo、ニ短調。序奏と主部の冒頭とが異なった調で2度奏でられる。極めて堅固に構成されたソナタ形式による。

**第2楽章** アレグレット、変ロ短調。弦楽器のピチカートとハープの伴奏で、イングリッシュ・ホルンが第1楽章の主要主題の変形である主題を奏でる。中間部のスケルツォでは弦楽器による走句。そしてやがてこの2つの主題は、対位的に重ね合わされる。

**第3楽章** アレグロ・ノン・トロppo、ニ長調。輝かしいフィナーレである。チェロの主題の原型に、ベートーヴェンの《歓喜の歌》を思うのは考えすぎだろうか。ソナタ形式になっているが、すべての主題が循環形式によって緊密に結ばれていて、フランクの成熟した和声連結、構成感、展開技法などを見ることができる。

作曲年代	1887～1888年
初演	1889年2月17日、ジュール・オーギュスト・ガルサン指揮、パリ音楽院演奏協会（パリ音楽院管弦楽団）
楽器編成	フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、ハープ1、弦楽

# N響百年史

## 第三十七回 — コロナ事件

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で、音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。マーラー《交響曲第四番》の世界初全曲録音をひっさげ、欧米を舞台に活動の幅を拡げようとする近衛秀麿と新響楽員との間に吹き始めた隙間風が引き起こした事件とは――。

### 分裂劇、ふたたび

コロナ事件は1931(昭和6)年5月30日に始まった。ここでのコロナとは、ラテン語の冠の意でも、太陽を取り巻くガス層の名称でも、はたまたコロナウイルスのことでない。楽団の名前だ。騒動の末、新交響楽団を退いた、もしくは辞めさせられたメンバーが集まって、コロナ・オーケストラなる新団体を結成した。要するにコロナ事件とは、新交響楽団からコロナ・オーケストラが分裂した事件のことだ。このとき新交響楽団から出て行った楽員は20数名といわれる。3分の1以上であろう。

新交響楽団、すなわち今日のNHK交響楽団の歴史は、日本交響楽協会から分裂するところからスタートした。1926(大正15、昭和元)年のことだった。それから5年しての再度の分裂劇である。いったい何があったのか。

話は前年の1930(昭和5)年に遡る。近衛秀麿が5月の新交響楽団第69回定期公演(当時は予約演奏会)でマーラーの《交響曲第4番》を取り上げ、直後に日本パーロフォン・レーベルに同曲の世界初全曲録音を行ったことは、前回触れたとおりである。その後、近衛は、同年度の秋楽季のオープニングを飾る9月28日の第73回定期公演に登場し、マキシム・シャピロを独奏に迎えたラフマニノフの《ピアノ協奏曲第3番》などを披露したのを最後に、翌年2月28日までの5か月間、新交響楽団の指揮台に姿を見せなくなる。そのあいだの定期公演では、ヨーゼフ・ケーニヒの後を受けて近衛に次ぐパーマネントな指揮者の立場にあったニコライ・シフェルブラットが、ブラームスの《交響曲第4番》、チャイコフスキーの《交響曲第6番》、ドビュッシーの《交響詩「海」》、ラヴェルの《ボレロ》など幅広

いレパートリーを振った。また、デンマークから東京音楽学校(現東京藝術大学音楽学部)にやってきていた「お雇い外国人」のチャールス・ラウトロブがニルセンの《交響曲第2番》を日本初演し、ハルビンから関西に居を移していた亡命ロシア人のエマヌエル・メッテルは、グラズノフの《交響曲第4番》を取り上げた。ドイツ帰りの山本直忠(直純の父)も定期に初登場。メンデルスゾーンの《交響曲第4番》を指揮した。

はて、近衛はどこへ? 10月から1月まで洋行した。欧州楽壇に自身を売り込みに行った。近衛は1923(大正12)年から翌年にかけてドイツを中心に活動してベルリン・フィルハーモニー管弦楽団も指揮し、大いに箔を付けた。東京でプロ・オーケストラを育てる熱意ももともと十分にもっていたが、それ以上に本場の欧州での継続的な活躍を望んでいた。事の成り行きから東京に居残り、1926年に誕生した新交響楽団とともに歩むようになってしまったけれど、それから4年。新交響楽団の面倒を見る気はまだまだあるが、東京に始終へばりついておらずともそろそろよいのではないかと考えるようになった。欧米に客演する期間を長くコンスタントにもちたい。欧米からも東京に客演指揮者やソリストをもっともつと招聘したい。その下準備のための4か月の旅とってよかった。

シベリア鉄道経由でベルリンに着いた近衛は旺盛に動きまわる。フルトヴェングラーとベルリン・フィルハーモニー管弦楽団という今が盛りを迎えつつあるコンビの演奏に惚れ込み、指揮者と面会し、サジェスションを受ける。曲によっては、指揮者が積極的に楽譜をいじり、楽器編成に手を加え、編曲することも重要だとのメッセージを受け取り、近衛の“編曲癖”が高ずることにもなる。クレンペラーの、フルトヴェングラーと正反対な即物的指揮ぶりに現代性を

覚えもする。フルトヴェングラーもクレンペラーも新作紹介に熱心なのが、近衛をまたすこぶる刺激する。ヒンデミットからは、彼の問題作、《歌劇「きょうのニュース」》の序曲の演奏の仕方について教えるを受ける。エーリヒ・クライバーとはかなり親しくなり、自宅にも招かれる。なんこの大指揮者は、パーロフォン社から贈られていたのか、近衛のマーラーの録音を繰り返し聴いていたという。近衛の解釈やオーケストラの腕前についてたくさん意見されたい。このときの刺激がコロナ事件にある程度は関係してくるに違いない。近衛の音楽的理想は、ドイツで超一流の指揮者とオーケストラに次々と接しているうちに、突如としてとてつもなく高くなり、日本の現実を踏み越えて舞い上がってしまった。それなりに上出来とも判断しうるマーラーの録音も、指揮者本人としては急にみすばらしく感じられるようになった。この先、新交響楽団を世界に通用する一流オーケストラへと育ててゆくには、楽員を鍛えるだけでなく取り替えてゆくことが重要。近衛は1930年の洋行を機に、そんな念に深くとらわれてゆく。

近衛は本来の指揮業ももちろんこなす。ドイツやチェコスロヴァキアのオーケストラを振り、ミラノ・スカラ座管弦楽団とはレコーディングも果たす。ベートーヴェンの《交響曲第1番》やリムスキー・コルサコフの《スペイン奇想曲》である。明けて1931(昭和6)年の1月にはソ連へ。目的は、モスクワを本拠とするペルシムファンズという名のオーケストラを振ること。同団は、共産主義の平等の理想とも絡み合う、どんなに大編成でも指揮者なしでアンサンブルする交響楽団として、広く知られていた。が、客演指揮者を招くときもある。近衛は、ムソルグスキーの《展覧会の絵》のラヴェル編曲版やリヒャルト・シュトラウスの《交響詩「ドン・ファン」》などと

もに、《雅楽「越天楽」》も振った。近衛秀麿の弟の直麿<sup>なおまる</sup>が原曲を西洋式の五線譜に採譜したものを、秀麿が西洋管弦楽用にアレンジした。その仕事に秀麿は行きのシベリア鉄道の車内などで励んでいた。ソ連での演奏が近衛版《越天楽》の世界初演だろう。編曲作品とはいえ、非西洋的オリジナリティに満ちあふれた斬新なオーケストラ音楽として異様な興奮をもってソ連の聴衆に迎えられたので、近衛の音楽家としての自信は深まった。ひとりの指揮者として西洋でやっていけるだろう。

帰国した近衛は、1930年度の秋楽季を締めくくる、1931年3月の第85回と第86回の定期公演で、新交響楽団の指揮台に戻ってくる。いきなり洋行土産をプログラムにぶち込む。グレーナーの《サン・スーシの笛》やピエルネの《ミュージック・ホールの印象》、オネゲルの《機関車パシフィック231》。この流れは1931年4月に始まる春楽季にも継続される。クルト・ワイルの《小さな三文音楽》や、作曲家直伝の演奏解釈による Hindemith の《「きょうのニュース」序曲》など。新交響楽団のメンバーにも新しい種類の技術や感覚が求められることが多くなる。コロナ事件はそんな頃合いに起きた。

## 事件の顛末

5月30日の朝、新交響楽団の楽員たちは新宿駅に集合し、奥多摩に日帰り旅行に出かけた。慰労と親睦が表向きの目的だが、実は別の話があった。オーケストラのメンバーをいじりたそうな近衛の先手を打つ。そのために組合を作る相談をしたらしい。結成の経緯やその後の建前からいえば、新交響楽団は楽員が自主的に結成し運営する、あくまでも楽員が主役



1931年5月30日、  
楽員たちは慰労会で奥多摩へ日帰り旅行へと出かけた

の集団である。近衛秀麿は楽員と対等の一個人として指揮を引き受けているにすぎないし、日本放送協会は新交響楽団を頻繁にラジオに出演させてくれるクライアントでありサポーターにすぎない。しかし実態は建前とはなはだしく乖離<sup>かいり</sup>している。もしも定期公演の予約会員券の料金だけで経常費をまかなえれば、とりあえず楽員の自主性も保たれようが、まるでそうではない。近衛家はオーケストラの毎月の赤字を常に補填しているし、そもそも荏原<sup>えぼら</sup>の練習所も管楽器を中心とするかなりの楽員のための楽器も近衛家の持ち物だ。それがオーケストラに貸与<sup>かつかう</sup>されている恰好だ。放送局も、過大な出演料や補助金を与えて、オーケストラを支えているから、事実上の親であり後見人である。自主運営組織とは名ばかりだ。おまけに時代が時代である。1931年5月といえば、ニューヨークで株式が大暴落し世界大恐慌が始まってから1年半後。影響は日本国内にもはなはだしく、新交響楽団の定期会員数も減少の一途をたどっていた。楽団の経営はますます近衛家と日本放送協会頼みにならざるをえない。

ちょうどそのとき、近衛は洋行の末、フルトヴェングラー<sup>フルトヴェ</sup>の刺戟<sup>しげき</sup>が強すぎたのか、クライバーに感化されたのか、極端な芸術至上主義者としての

面貌をあらわにしだした。帰国後の近衛の物の言い方はこんな具合だ。「僕が今春数ヶ月の外遊から帰へつて来て新響を聞いた時、殆ど自分の耳を疑ふ他なかつた。凡そ世界的のレベルは高い。けれども今春の新響などは、僻地の第三流、第四流にすら比ぶ可くもない。それに東京の好楽家は蓄音機を通じてフィラデルフィアや伯林やウイーンのフィルハーモニー等の一流のオーケストラの演奏に親しんで居る」(『音楽世界』1931年9月号)

世界大恐慌と楽団の経営困難で、給与と生活の水準がどうなっていくか、楽員たちが先の見えぬ恐怖に突き落とされているところに、指揮者がメンバーの低技量をしきりに嘆くようになっては、楽団に留まれるかどうかさえ危うくなってくる。にもかかわらず、楽員が主役のはずの新交響楽団には雇用を守る規約も組合も存在しない。みんなで秘密の相談をしたくなるのも当然だろう。でもこの動きが新聞社を通じて近衛にいち早く伝わってしまう。楽員のひとりで、宮沢賢治のチェロの先生としても知られる大津三郎は後年、このとき近衛が楽員側にこう通告してきたと回想する。「芸術的に行詰った新響を、楽員の生活のためにのみ継続してゆく事は、自分の芸術的良心に反するから手を引く。但し経営に要する自分私有の物件を悉く提供するから委員の手でやって見たらよからう」(『フィルハーモニー』1935年第8号)。策謀を続けて、雇用優先に凝り固まるなら、近衛は下手なオーケストラを棄てて、

練習所や楽器を置き土産に、出ていくという。また洋行してしまうという。文中で「委員」と呼ばれているのは楽員の代表者のことである。大津によれば、ここで楽員たちに喧々囂々の議論が起り、結局、近衛なくして新交響楽団は成り立たぬから、楽員が謝ることになった。下手な仲間を追い出す肚の近衛に従うよりも、逆に楽団の総意で近衛を追い出すほうが正しい選択だと、トロンボーン奏者で作曲もした伊藤昇などは主張したが、少数意見にとどまった。近衛は楽員の方向転換を歓迎したけれど、そこで自らが楽員の中から委員を指名し、彼らの決定に楽員全員が従わなければ、自分はオーケストラに戻らぬと言って、問題解決のハードルを上げた。楽員側はそれも認めた。やはり近衛は上手でないメンバーを本気でやめさせたくて思いつめていたらしい。かくして近衛の息のかかった委員たちが、20名以上の楽員に自主的にやめてもらうように仕向けた。反近衛派と低技量の者たちがまとめて粛清された具合だろう。

しかし、いっぺんにそれだけ大勢が抜けた穴埋めを、近衛はどうやってするつもりだったのか。

#### 文 | 片山杜秀(かたやま りひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

#### 次回予告

大規模リストラによる大幅な人員不足を、近衛はどのように乗り切るつもりであったのか。穴埋め補填の大構想と挫折のいっぽうで、新響は久しく距離のあった山田耕筰との和解に向かいます。

# 2023年6月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

ジャンンドレア・ノセダは、世界各地のオーケストラや歌劇場からオファーが絶えない人気指揮者。N響とは2005年以来しばしば共演しているが、ようやく5年ぶりにスケジュールを押さえることができた。母国イタリアと、長くマリンスキー劇場の首席客演指揮者を務めた関係で縁の深いロシアの作品を指揮する。

**カゼッラのリバイバルに尽力するノセダが  
オペラ《蛇女》の組曲を日本初演**

[Aプログラム]の《3つのオレンジへの恋》と《蛇女》は、どちらもオペラに基づくオーケストラ組曲で、原作は18世紀ヴェネツィアの劇作家カルロ・ゴツィの<sup>うわ</sup>寓話劇である。ゴツィはイタリア伝統の喜劇“コメディア・デラルテ”を下敷きにしなが、風刺の効いた童話風の物語を次々に発表し、人気を博した。2つのオペラは、モーツァルトの《魔笛》などと同様、主人公が試練を乗り越えて目的を達成する冒険譚<sup>たん</sup>で、両方に〈行進曲〉が含まれるのは、ストーリーの性格を考えれば偶然ではない。機

械的でエッジの効いたプロコフィエフの有名な〈行進曲〉に対し、カゼッラのそれは色彩豊か、特に後半はまるでハリウッド映画さながらのゴージャスさである。埋もれかけていたカゼッラに光を当てたのは、ノセダの大きな功績のひとつ。日本初演の《蛇女》は今回の目玉と言えよう。プロコフィエフ《ピアノ協奏曲第2番》では、ウズベキスタン出身の若手ベフゾド・アブドゥライモフが<sup>ま</sup>冴えわたる技巧とリズム感で、モダニズム精神あふれる力作に迫る。

**今こそ耳を傾けたい  
——戦争の惨禍を表象する  
シヨスタコーヴィチ《第8番》**

[Cプログラム]の《交響曲第8番》について、シヨスタコーヴィチは「楽天的で人生を肯定的に描いたもの」と語っているが、もちろんその言葉が<sup>う</sup>鵜呑みにはできない。この曲でも、行進曲風のリズムが複数の楽章にまたがって現れる。しかしそれは決して「楽天的」ではなく、曲が書かれた当時のリアルな現実、すなわち戦争の惨禍を表象していると考え

のが自然だろう。第3楽章では無機質に刻まれる2分の2拍子の弦に、スフォルツァンドの和音や管楽器の急激な下降音が暴力的に叩き込まれるが、昨今のニュース映像でも目に<sup>たた</sup>する、砲弾やミサイルが飛び交う光景を否応なしに連想してしまう。続くパッサカリアとフィナーレは鎮魂や救いになり得るのか。「気軽に名曲を」というCプログラムのコンセプトから逸脱するかもしれないが、敢えてシーズンの締めくくりに置くことにした。ノセダ入魂の演奏にじっくり耳を傾けて頂きたい。

### 生誕150年のラフマニノフと レスピーギの華麗なオーケストレーション

[Bプログラム]は教会音楽が通しテーマ。《3つのコラール》は、バッハのオルガン音楽をレスピーギが演奏会用に編曲したもの。終始控えめに動いていたオーケストラが、有名な〈目を覚ませと呼ぶ声が聞こえ〉の後半で、文字通り目覚めるかのように花開く瞬間はと

ても効果的だ。レスピーギはバッハに限らずルネサンスやバロックの音楽を熱心に研究したが、その成果のひとつが、教会旋法やグレゴリオ聖歌の旋律を取り入れた《グレゴリオ風協奏曲》である。古い様式と師匠リムスキー・コルサコフ譲りの華麗なオーケストレーションを融合させた点に、作品のユニークさがある。庄司紗矢香は以前、ノセダが指揮するレスピーギゆかりのローマ聖チェチーリア国立アカデミー管弦楽団とこの曲を演奏している。幼少期をイタリアで過ごした庄司にとって、格別の思いがある選曲に違いない。ラフマニノフの《交響曲第1番》には、ロシア正教会のズナメニ聖歌や、彼が愛した《怒りの日》の断片が現れる。意識的に用いたかどうかはともかく、曲全体に漂う宗教的なオーラは明らかである。生誕150年にちなみ、毎月1曲ずつ取り上げてきたラフマニノフも今月で最終回。有終の美を飾る演奏を期待したい。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

**A** 6/10 土  
6:00pm  
6/11 日  
2:00pm  
NHKホール

プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis  
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番 卜短調 作品16  
カゼッラ／歌劇「蛇女」からの交響的断章 [日本初演]  
指揮：ジャンドレア・ノセダ  
ピアノ：ベフゾド・アブドゥライモフ\*



\*当初発表の出演者から変更となりました。

**B** 6/21 水  
7:00pm  
6/22 木  
7:00pm  
サントリーホール

バッハ(レスピーギ編)／3つのコラール  
レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲\*  
ラフマニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13  
指揮：ジャンドレア・ノセダ  
ヴァイオリン：庄司紗矢香\*



**C** 6/16 金  
7:30pm  
6/17 土  
2:00pm  
NHKホール

ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 ハ短調 作品65  
指揮：ジャンドレア・ノセダ





# チケットのご案内(定期公演 2022年9月～2023年6月)

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 5-6月 発売中

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ A・CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します。

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません。

発売開始日 年間会員券 販売終了  
シーズン会員券(Autumn / Winter / Spring) 販売終了

## 料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※ ( )内は1公演あたりの単価

## WEBセレクト3+

Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※ お取り扱いにはWEBチケットN響のみとなります。

※ 1回券の一般発売日からご利用いただけます。

※ 割引の併用はできません。

※ 定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください。

## ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。2022-23シーズンからユースチケット1回券は、すべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります。

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます。

WEBチケットN響 6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp>

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp> 発売開始日は10:00amからの受付

N響ガイド 6/27(火)まで TEL 03-5793-8161

営業時間: 11:00am～5:00pm  
定休日: 土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

6/29(木)から TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am～5:00pm ▶ 営業開始時刻が変わります  
定休日: 土・日・祝日

※ 主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業 ※ 発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻～3:00pmの営業 ※ 電話受付のみの営業  
※ N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前まで ※ 6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止

※ やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

「N響ガイド」および「WEBチケットN響」のサービス移行のお知らせ(2023年6月29日～)

詳しくは p.43 をご覧ください

Please follow us on     

# 2022-23定期公演プログラム

	A NHKホール	B サントリーホール	C NHKホール
	<b>開場</b> 5:00pm <b>開演</b> 6:00pm <b>開場</b> 1:00pm <b>開演</b> 2:00pm	<b>開場</b> 6:20pm <b>開演</b> 7:00pm <b>開場</b> 6:20pm <b>開演</b> 7:00pm	<b>開場</b> 6:30pm <b>開演</b> 7:30pm <b>開場</b> 1:00pm <b>開演</b> 2:00pm
2023 05	<b>A</b> 第1983回 <b>5/13</b> <b>土</b> 6:00pm <b>5/14</b> <b>日</b> 2:00pm NHKホール	下野竜也が見つめる“祈り”と“奇跡”そしてライフワークのドヴォルザーク ラフマニノフ／歌曲集 作品34 —「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」 グバイドゥーリナ／オッフエルトリウム* ドヴォルザーク／交響曲 第7番 二短調 作品70 指揮:下野竜也 ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*	一般 ユースチケット S ¥9,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
	<b>B</b> 第1985回 <b>5/24</b> <b>水</b> 7:00pm <b>5/25</b> <b>木</b> 7:00pm サントリーホール	新緑の季節 清々しいホルンの響きとルイーザが誘う《田園》 ハイドン／交響曲 第32番 八長調 Hob. I-82「くま」 モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447 ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」 指揮:ファビオ・ルイーザ ホルン:福川伸陽	一般 ユースチケット S ¥9,900 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
	<b>C</b> 第1984回 <b>5/19</b> <b>金</b> 7:30pm <b>5/20</b> <b>土</b> 2:00pm NHKホール	19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品をルイーザの指揮で聴く ザン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」 フランク／交響曲 二短調 指揮:ファビオ・ルイーザ ピアノ:バスカル・ロジェ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
2023 06	<b>A</b> 第1986回 <b>6/10</b> <b>土</b> 6:00pm <b>6/11</b> <b>日</b> 2:00pm NHKホール	“カゼツラ・リバイバル”の仕掛人ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンス プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番 短調 作品16 カゼツラ／歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演] 指揮:ジャンドレ・ノセダ ピアノ:ペフゾド・アブドゥライモフ* *当初発表の出演者から変更となりました。	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
	<b>B</b> 第1988回 <b>6/21</b> <b>水</b> 7:00pm <b>6/22</b> <b>木</b> 7:00pm サントリーホール	ノセダがメモリアルイヤーに問うラフマニノフ初期作の真価 バッハ(レスピーギ編)／3つのコラール レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲* ラフマニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13 指揮:ジャンドレ・ノセダ ヴァイオリン:庄司紗矢香*	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500
	<b>C</b> 第1987回 <b>6/16</b> <b>金</b> 7:30pm <b>6/17</b> <b>土</b> 2:00pm NHKホール	満を持してN響で初披露 ノセダ得意のショスタコーヴィチ《第8番》 ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65 指揮:ジャンドレ・ノセダ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800 (料金はすべて税込)

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Cプログラムについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩のない、60～80分程度の公演となります。</li> <li>・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催します(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。</li> </ul>
------------	---

# 2023-24シーズン定期公演プログラム

## PROGRAM

# A

最高峰の指揮者、  
ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。  
——オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

## NHKホール

± 6:00pm 日 2:00pm

### Autumn

2023

09 September

第1989回

9/9 ± 6:00pm

9/10 日 2:00pm

シュトラウスの若き日の名作で  
ルイーゼが故郷・イタリアを活写する

R. シュトラウス / 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲル  
の愉快ないたずら」作品28

R. シュトラウス / ブルレスケ 二短調\*  
R. シュトラウス / 交響的幻想曲「イタリアから」作品16

指揮: ファビオ・ルイーゼ ピアノ: マルティン・ヘルムヒェン\*



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2023

10 October

第1992回

10/14 ± 6:00pm

10/15 日 2:00pm

ブロムシュテットとN響が築く  
荘厳な音の伽藍

ブルックナー / 交響曲 第5番 変ロ長調

指揮: ヘルベルト・ブロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2023

11 November

第1997回

11/25 ± 6:00pm

11/26 日 2:00pm

フェドセーエフが愛おしむロシア舞台音楽の傑作たち

スヴイリドフ / 小三部作  
プロコフィエフ / 歌劇「戦争と平和」—「ワルツ」(第2場)

A. ルビンシテイン / 歌劇「悪魔」のバレエ音楽—「少女たちの踊り」\*  
グリーンカ / 歌劇「イワン・スサーニン」—「クラコーヴィアク」

リムスキー・コルサコフ / 歌劇「雪娘」組曲  
チャイコフスキー(フェドセーエフ編) / バレエ組曲「眠りの森の美女」

指揮: ウラディーミル・フェドセーエフ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

★当初発表の曲目から変更となりました。

### Winter

2023

12 December

第2000回

12/16 ± 6:00pm

12/17 日 2:00pm

渋谷から鳴動する 大宇宙を震わす響き

第2000回定期公演

マーラー / 交響曲 第8番 変ホ長調 「一千人の交響曲」  
[ファン投票選出曲]

指揮: ファビオ・ルイーゼ ソプラノ: エレーナ・スティッキーナ、

ヴァレンティーナ・ファルカシュ、三宅理恵

アルト: オレシア・ベトロヴァ、カリオーナ・モリソン

テノール: ミハエル・シャデー

バソーン: ルーク・ストリアフ バス: デーヴィッド・ステフェンス

合唱: 新国立劇場合唱団 児童合唱: NHK東京児童合唱団



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,200
D ¥5,000	D ¥2,500
E ¥3,300	E ¥1,600

2024  
01 January  
第2001回  
1/13 土 6:00pm  
1/14 日 2:00pm

舞台音楽に通暁するソビエフの  
フランス&ロシア バレエ音楽の精華  
ビゼー(シCHEDリン編)／バレエ音楽「カルメン組曲」  
ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」  
ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」  
指揮:トウガン・ソビエフ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

2024  
02 February  
第2004回  
2/3 土 6:00pm  
2/4 日 2:00pm

井上道義 最後のN響定期で  
ショスタコーヴィチの問題作を問う  
ヨハン・シュトラウスII世/ボルカ「クラップフェンの森で」作品336  
ショスタコーヴィチ/舞台管弦楽のための組曲 第1番  
—「行進曲」「リリック・ワルツ」【小さなボルカ】「ワルツ第2番」  
ショスタコーヴィチ/  
交響曲 第13番 変口短調 作品113「バビヤール」\*  
指揮:井上道義 バス:エフゲーニ・スタヴィンスキー\*  
男声合唱:オルフェイドレンガル男声合唱団\*



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

Spring

2024  
04 April  
第2007回  
4/13 土 6:00pm  
4/14 日 2:00pm

妥協なき巨匠 ヤノフスキと拓く  
ブラームス《第1番》の新たな世界  
シューベルト/交響曲 第4番 ハ短調 D. 417  
ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68  
指揮:マレク・ヤノフスキ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

2024  
05 May  
第2010回  
5/11 土 6:00pm  
5/12 日 2:00pm

眼前に蘇る古今のローマの情景  
そして人々の息遣い  
バンフィリ/戦いを生きる【日本初演】  
レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」  
レスピーギ/交響詩「ローマの松」  
レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」  
指揮:ファビオ・ルイーゼ



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2024  
06 June  
第2013回  
6/8 土 6:00pm  
6/9 日 2:00pm

盟友 原田と反田が誘う  
魅力あふれるスクリャービンの世界  
スクリャービン/夢想 作品24  
スクリャービン/ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20  
スクリャービン/交響曲 第2番 ハ短調 作品29  
指揮:原田慶太楼  
ピアノ:反田恭平



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥69,300 A ¥58,050 B ¥45,090 C ¥36,720 D ¥28,800 D(ユースチケット) ¥8,100(税込)  
シーズン会員券(3回) | S ¥24,360 A ¥20,310 B ¥15,870 C ¥12,870 D ¥10,140 D(ユースチケット) ¥3,300(税込)

※今シーズンよりAプログラムの定期会員券および1回券の料金を改定させていただきます(E席1回券、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

# 2023-24シーズン定期公演プログラム

## PROGRAM

# B

豊かな響きのサントリーホールで味わう名匠たちの音作り。  
—豪華なソリストたちの至芸にも期待。

## サントリーホール

水 7:00pm

木 7:00pm

### Autumn

2023

09 September

第1991回

9/20 水 7:00pm

9/21 木 7:00pm

“古楽の達人”の自由な精神が  
モーツァルトに新たな命を吹き込む

モーツァルト／交響曲 第29番 イ長調 K. 201  
モーツァルト／フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314  
モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

指揮: トン・コーマン  
フルート: 神田寛明 (N響フルート首席奏者)



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2023

10 October

第1994回

10/25 水 7:00pm

10/26 木 7:00pm

巨匠の愛楽曲 ブラームス《第3番》で  
その至芸を味わう

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調  
作品73「皇帝」  
ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90

指揮: ヘルベルト・ブロムシュテット  
ピアノ: レイフ・オヴェ・アンズネス



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2023

11 November

第1996回

11/15 水 7:00pm

11/16 木 7:00pm

最高峰の解釈者が紡ぐシベリウス  
その幽玄な世界に浸る

シベリウス／交響詩「タピオラ」作品112  
ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲 二調  
シベリウス／交響曲 第1番 ホ短調 作品39

指揮: ユッカ・ベッカ・サラステ  
ヴァイオリン: ベッカ・クーシスト



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

### Winter

2023

12 December

第1999回

12/6 水 7:00pm

12/7 木 7:00pm

レーガールの気品あふれる名作をレイージの指揮で聴く

レーガール生誕150年

ハイドン／交響曲 第100番 ト長調 Hob. I-100 「軍隊」  
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調  
レーガール／モーツァルトの主題による変奏曲と  
フーガ 作品132

指揮: ファビオ・ルイーゼ  
ピアノ: アリス・紗良・オット



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

01

January

第2003回

1/24 水 7:00pm

1/25 木 7:00pm

♪響が誇るトップ奏者たちが  
モーツァルトで腕を振るう

モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための

協奏交響曲 変ホ長調 K. 364

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮：トウガン・シエフ

ヴァイオリン：郷古 廉 (♪響ゲスト・コンサートマスター)\*

ヴィオラ：村上淳一郎 (♪響ヴィオラ首席奏者)

★当初発表の出演者から変更となりました。



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

02

February

第2006回

2/14 水 7:00pm

2/15 木 7:00pm

エラス・カサド 母国の名作を携え

5年ぶりに♪響定期登場

ラヴェル／スペイン狂詩曲

プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番

ト短調 作品63

ファリャ／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)\*

指揮：パブロ・エラス・カサド

ヴァイオリン：オーガスティン・ハーデリッヒ

ソプラノ：吉田珠代\*



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

## Spring

2024

04

April

第2009回

4/24 水 7:00pm

4/25 木 7:00pm

巨匠が生涯をかけて探究する

シューマンの奥深き世界

シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲

シューマン／チェロ協奏曲 イ短調 作品129

シューマン／交響曲 第2番 八長調 作品61

指揮：クリストフ・エッセンバッハ

チェロ：キアン・ソルターニ



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

05

May

第2012回

5/22 水 7:00pm

5/23 木 7:00pm

デンマーク国立響のシェフ ルイージが

♪響でニルセンを初披露

ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15

ニルセン／交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」

指揮：ファビオ・ルイージ

ピアノ：ルドルフ・プフリンダー



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

06

June

第2015回

6/19 水 7:00pm

6/20 木 7:00pm

楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を

鈴木優人のタクトで聴く

ウェーベルン／パッサカリア 作品1

シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36

パツハ(ウェーベルン編)／リチェルカータ

シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485

指揮：鈴木優人

ヴァイオリン：イザベル・ファウスト



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥74,970 A ¥64,260 B ¥51,255 C ¥41,310 D ¥33,660 D(ユースチケット) ¥9,720

※ Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

※ 今シーズンよりBプログラムの定期会員券の料金を改定させていただきます。あわせて1回券を全公演一律料金とさせていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

〈お知らせ〉 来季2024-25シーズンよりBプログラムの日程を「木曜7:00pm / 金曜7:00pm」に変更させていただきます。

# 2023-24シーズン定期公演プログラム

## PROGRAM

# C

世界的指揮者のタクトでコンパクトに味わう屈指の名作たち。  
 ——テーマは“冒険”と“ファンタジー”。開演前の室内楽も魅力的。

**NHKホール** | 金 7:30pm 土 2:00pm

※休憩のない、60～80分程度の公演となります。

※開演前に舞台上で、N響メンバーによる室内楽のミニコンサートを行います(15分程度、1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。  
 ご自身の座席でお楽しみください。室内楽演奏中の客席への出入りは自由です。

### Autumn

2023

09

September

第1990回

9/15

金 7:30pm

9/16

土 2:00pm

オペラの達人が本領発揮!  
 ルイージが迫る ワグナーの真髄

ワグナー(フリーヘル編)/楽劇「ニーベルングの指環」  
 ——オーケストラ・アドベンチャー——

指揮:ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023

10

October

第1993回

10/20

金 7:30pm

10/21

土 2:00pm

ニルセン&シベリウス  
 プロムシュテット十八番の北欧プログラム

ニルセン/アラジン組曲 作品34  
 ——「祝祭行進曲」「ヒンドウの踊り」  
 「イスファハンの市場」「黒人の踊り」  
 シベリウス/交響曲 第2番 二長調 作品43

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023

11

November

第1995回

11/10

金 7:30pm

11/11

土 2:00pm

ハンガリー出身の新星が贈る母国の名作

バルトーク/ハンガリーの風景  
 リスト/ハンガリー幻想曲\*  
 コダーイ/組曲「ハーリ・ヤーノシュ」

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ  
 ピアノ:阪田知樹\*



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

### Winter

2023

12

December

第1998回

12/1

金 7:30pm

12/2

土 2:00pm

目くるめく夢幻 荒れ狂う狂騒  
 ルイージの《幻想》

フンパーディンク/歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲  
 ベルリオーズ/幻想交響曲 作品14

指揮:ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024

01

January

ソヒエフが切実に描く  
恋人たちの悲劇

リャードフ／交響詩「キキモラ」作品63

プロコフィエフ(ソヒエフ編)／  
バレエ組曲「ロメオとジュリエット」

指揮:トウガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

第2002回

1/19 金 7:30pm

1/20 土 2:00pm

2024

02

February

情熱の人 大植英次  
四半世紀を経て再びN響定期の舞台に

ワーグナー／ジークフリートの牧歌

R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮:大植英次



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

第2005回

2/9 金 7:30pm

2/10 土 2:00pm

Spring

2024

04

April

巨匠エッシェンバッハ  
満を持してブルックナーをN響で初披露

ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調

指揮:クリストフ・エッシェンバッハ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

第2008回

4/19 金 7:30pm

4/20 土 2:00pm

2024

05

May

ルイーゼ&N響のメンデルスゾーン第2弾  
《夏の夜の夢》&《宗教改革》

メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽  
—「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」

メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二短調 作品107  
「宗教改革」

指揮:ファビオ・ルイーゼ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

第2011回

5/17 金 7:30pm

5/18 土 2:00pm

2024

06

June

定期初登場 沖澤のどかと臨む  
エスプリ溢れるフランス・プログラム

イベール／寄港地

ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲

ドビュッシー／夜想曲\*

指揮:沖澤のどか  
ピアノ:デニス・コジュヒン  
女声合唱:東京混声合唱団\*



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥57,780 A ¥50,760 B ¥40,500 C ¥32,760 D ¥25,020 D(ユースチケット) ¥7,200(税込)

シーズン会員券(3回) | S ¥20,340 A ¥17,910 B ¥14,250 C ¥11,520 D ¥8,790 D(ユースチケット) ¥3,000(税込)

\*今シーズンよりCプログラムの定期会員券および1回券の料金を改定させていただきます(E席1回券、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。



# チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2023年7月9日[日](定期会員先行)／2023年7月17日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2023年10月12日[木](定期会員先行)／2023年10月17日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2024年2月7日[水](定期会員先行)／2024年2月16日[金](一般)

## 料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

( )内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A・Cプログラムのユースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2023年7月27日[木](定期会員先行)／2023年7月30日[日](一般)
	12・1・2月	2023年10月26日[木](定期会員先行)／2023年10月29日[日](一般)
	4・5・6月	2024年2月28日[水](定期会員先行)／2024年3月3日[日](一般)

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※「WEBセレクト3+」の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

## ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。  
※25歳以下の証明となるものをご提示いただきます。※ユースチケットのお取り扱いにはN響ガイドのみとなります。

2023年7月上旬より、1回券ユースチケットをWEBチケットN響でもご購入いただけます。  
利用にあたっては事前に登録が必要となります。詳しくはN響ホームページでご案内いたします。

## WEBチケットN響

6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp>

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp> 発売開始日は10:00amからの受付

## N響ガイド

6/27(火)まで TEL 03-5793-8161 営業時間：11:00am～5:00pm  
定休日：土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

6/29(木)から TEL 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm ▶営業開始時刻が変わります  
定休日：土・日・祝日

※主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業 ※発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻～3:00pmの営業 ※電話受付のみの営業  
※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前まで ※6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

「N響ガイド」および「WEBチケットN響」のサービス移行のお知らせ(2023年6月29日へ)

詳しくは p.43をご覧ください

Please follow us on     

# 特別公演

## 6/27(火) 7:00pm | Music Tomorrow 2023

東京オペラシティ コンサートホール | ※尾高賞授賞式・プレトーク: 6:30pm～

指揮:ライアン・ウィグルスワース 尺八:藤原道山 ヴァイオリン:金川真弓 三味線:本條秀慈郎

藤倉 大 / 尺八協奏曲 (2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]

一柳 慧 / ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲 (2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]

スルンカ / スーパーオーガニズム (2022) [NHK交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、

パリ管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団共同委嘱作品 / 世界初演]

※当初発表の演奏曲から変更になりました

料金(税込):一般 | S席3,500円 A席2,500円 B席1,500円

WEBチケットN響 特別料金 | S席3,000円 A席2,000円 B席1,000円

チケット:発売中

主催:NHK / NHK交響楽団

共催:公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 /

公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人 アフィニス文化財団



## 7/21(金) 7:00pm | N響「夏」2023

NHK ホール

指揮:熊倉 優 ピアノ:北村朋幹

ウェーバー / 歌劇「魔弾の射手」序曲

モーツァルト / ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491

シューマン / 交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(25歳以下) | S席5,200円 A席3,800円 B席2,350円 C席1,500円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:5月17日(水) 11:00am

N響定期会員先行発売日:5月11日(木) 11:00am

主催:NHK / NHK交響楽団

協賛:岩谷産業株式会社

---

**8/3(日) 7:00pm | N響ウエルカム・コンサート**

---

**NHK ホール**

---

指揮:熊倉 優 フルート:神田寛明(N響首席フルート奏者) ナビゲーター:大林奈津子  
コダーイ/組曲「ハーリ・ヤーノシュ」—「ウィーンの音楽時計」(11月Cプログラム)  
R. シュトラウス/交響的幻想曲「イタリアから」—第4楽章「ナポリの人の生活」(9月Aプログラム)  
チャイコフスキー/バレエ音楽「眠りの森の美女」—「ワルツ」(11月Aプログラム)  
モーツァルト/フルート協奏曲 第2番 二長調—第2楽章(9月Bプログラム)  
ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「ワルキューレの騎行」(9月Cプログラム)  
ニルセン/アラジン組曲—「イスファハンの市場」(10月Cプログラム)  
イベール/寄港地—「バレンシア」(6月Cプログラム)  
レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」—「主頭祭」(5月Aプログラム)  
料金(全席指定/税込):一般 1,800円/定期会員 1,200円/ユースチケット(25歳以下) 500円/  
ウエルカム・ペアチケット(2枚1組) 2,000円

チケット発売日:5月17日(水) 11:00am

N響定期会員先行発売日:5月11日(木) 11:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

---

**8/6(日) 3:30pm | 夏休み特別公演 | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート**

---

**NHK ホール**

---

指揮:三ツ橋敬子 ナビゲーター・歌:小野あつこ\* ヴァイオリン:郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター)\*\*  
外山雄三/「管弦楽のためのラプソディ」—「八木節」  
久石 譲/オーケストラシリーズ「となりのトトロ」\*  
ピアソラ/「プエノスアイレスの四季」—「夏」\*\*  
ヘンデル/「水上の音楽」—「アラ・ホーンパイプ」  
アルヴェーン/スウェーデン狂詩曲 第1番「夏至の徹夜祭」(抜粋)  
J. シュトラウス2世/ホルカ「クラブフェンの森で」  
グローフェ/組曲「グランド・キャニオン」—「山道を行く」  
ファリャ/歌劇「はかなき人生」—「スペイン舞曲」 ほか

料金(税込):一般 | S席5,200円 A席4,200円 B席3,000円 C席1,500円  
25歳以下 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円  
小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円

※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売日:5月17日(水) 11:00am

N響定期会員先行発売日:5月11日(木) 11:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

# 9/28(木) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2023

サントリーホール

指揮:下野竜也 ピアノ:小林海都

ドヴォルザーク/序曲「謝肉祭」作品92

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K. 488

ドヴォルザーク/交響曲 第8番 ト長調 作品88

料金(税込):一般 | SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

ユースチケット(25歳以下) | SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:5月17日(水) 11:00am

N響定期会員先行発売日:5月11日(木) 11:00am

主催:NHK交響楽団

特別協賛:株式会社 明電舎

## WEB チケットN響

6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp> 発売開始日は11:00amからの受付

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp> 発売開始日は10:00amからの受付

## N響ガイド

6/27(火)まで TEL 03-5793-8161 営業時間:11:00am~5:00pm  
定休日:土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

6/29(木)から TEL 0570-02-9502 営業時間:10:00am~5:00pm▶営業開始時刻が変わります  
定休日:土・日・祝日

※主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業 ※発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻~3:00pmの営業 ※電話受付のみの営業  
※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前まで ※6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止

※ユースチケット(25歳以下)はN響ガイドにお電話でお申し込みください(7月上旬よりWEBチケットN響でもご購入いただけます)。

※事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響、N響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。



N響ホームページ

「N響ガイド」および「WEBチケットN響」のサービス移行のお知らせ(2023年6月29日~)

詳しくは p.43をご覧ください

## 各地の公演

---

### 5/28回 2:00pm | 市制施行80周年記念 NHK交響楽団舞鶴特別演奏会

---

#### 舞鶴市総合文化会館 大ホール

---

指揮:ファビオ・ルイーヂ ホルン:福川伸陽

ハイドン/交響曲 第82番 八長調 Hob. I-82「くま」

モーツァルト/ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447

ベートーヴェン/交響曲 第6番 八長調 作品68「田園」

主催:舞鶴市 お問い合わせ:舞鶴市総合文化会館 TEL(0773)64-0880

---

### 6/4回 4:30pm | 第25回 NHK交響楽団 足利定期公演

---

#### 足利市民プラザ・文化ホール

---

指揮:沼尻竜典 ヴァイオリン:アラベラ・美歩・シュタインバッハー

ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲

メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73

主催:(公財)足利市みどり文化・スポーツ財団/足利市教育委員会/下野新聞社 お問い合わせ:足利市民プラザ TEL(0284)72-8511

---

### 7/1回 4:00pm | N響ベストクラシックス 山下一史×金川真弓×N響

---

#### かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

---

指揮:山下一史 ヴァイオリン:金川真弓

チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

チャイコフスキー/交響曲 第4番 八短調 作品36

主催:葛飾区文化施設指定管理者 お問い合わせ:かつしかシンフォニーヒルズ TEL(03)5670-2233

---

### 7/2回 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 静岡公演

---

#### 静岡市清水文化会館マリナート

---

出演者・曲目は7月1日と同じ

主催:NHK静岡放送局、NHK交響楽団 お問い合わせ:静岡公演専用電話 TEL(052)320-9933

---

### 7/9回 3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

---

#### けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) 大ホール

---

指揮:尾高忠明 ピアノ:角野隼斗

ショパン/ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」(1945年版)

主催:(公財)郡山市文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)

お問い合わせ:けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL(024)934-2288

7/15(土) 5:00pm

小山実稚恵[ピアノ]《華麗なるコンチェルト》

NHK交響楽団×広上淳一[指揮]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:広上淳一 ピアノ:小山実稚恵

ブラームス/ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

主催:(公財)所沢市文化振興事業団 お問い合わせ:ミューズチケットカウンター TEL(04)2998-7777

7/23(日) 6:00pm | 第25回NHK交響楽団松山定期演奏会

松山市民会館 大ホール

指揮:熊倉 優 ピアノ:北村朋幹

ウェーバー/歌劇「魔弾の射手」序曲

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491

シューマン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

主催:NHK松山放送局、愛媛新聞社、NHK交響楽団 お問い合わせ:NHK財団松山局視聴者ふれあいセンター TEL(089)921-1159

7/29(日) 4:00pm | フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2023

ミュージア川崎シンフォニーホール

指揮:キンボー・イシイ ピアノ:マルティン・ガルシア・ガルシア

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:川崎市/ミュージア川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問い合わせ:ミュージア川崎シンフォニーホール TEL(044)520-0200

8/25(金) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 帯広公演

帯広市民文化ホール

指揮:アンドリス・ポーガ ピアノ:松田華音

チャイコフスキー/ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

チャイコフスキー/交響曲 第6番 ロ短調「悲愴」作品74

主催:NHK帯広放送局、NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤルTEL(050)5542-8600

8/27(日) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 旭川公演

旭川市民文化会館

出演者・曲目は8月25日と同じ

主催:NHK旭川放送局、NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤルTEL(050)5542-8600

8/28(日) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 札幌公演

札幌コンサートホール Kitara

出演者・曲目は8月25日と同じ

主催:NHK札幌放送局、NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤルTEL(050)5542-8600

---

**9/23(土) 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会 (愛知県芸術劇場シリーズ)**

---

**愛知県芸術劇場 コンサートホール**

---

指揮:トシ・コブマン フルード:神田寛明  
モーツァルト / 交響曲 第29番 イ長調 K. 201  
モーツァルト / フルード協奏曲 第2番 二長調 K. 314  
モーツァルト / 交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

主催:愛知県芸術劇場、NHK名古屋放送局 お問い合わせ:愛知県芸術劇場 TEL(052)211-7552

---

**オーチャード定期**

---

**横浜みなとみらいホール 大ホール**

---

**7/8(土) 3:30pm**

---

出演者・曲目は7月9日と同じ

主催・お問い合わせ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取   加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長   吉原大介
びあ株式会社	代表取締役社長   矢内 廣

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   森 俊哉	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長   鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史	・ (株)ウインクツー 代表取締役   福田健二
・ (株)アイシン 取締役社長   吉田守孝	・ (株)アドバンストアールエフデザイン 代表取締役   田中 進	・ 内 聖美
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長   大谷喜一	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役   佐々木経世	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   近藤雄一郎
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ EY 新日本有限責任監査法人 理事長   片倉正美	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 當麻隆昭
・ AXLBIT(株) 代表取締役社長   長谷川章博	・ (株)井口一世 代表取締役   井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   平田恭佐
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO   勝木敦志	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長   山田哲生
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ 伊東国際特許事務所 所長   伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長   荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長   伊藤康博	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO)   中島伸子	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   松本浩司



- ・(学)NHK学園  
理事長 | 篠原朋子
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス  
代表取締役 | 根本拓也
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター  
代表取締役社長 | 浦林竜太
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファミリアーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOSホールディングス(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 星野晃司
- ・カシオ計算機(株)  
代表取締役社長 | 樫尾和宏
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメント(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)  
代表取締役社長COO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS  
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 重盛次正
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)  
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(仮)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグママックス・ホールディングス  
代表取締役 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館  
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック青山  
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン  
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO | 村松俊亮

- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)  
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 岡野俊亮
- ・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)  
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
三宅 潔
- ・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル 東日本(株)  
代表取締役社長 | 谷 誠
- ・(株)電通  
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポプリモ  
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)  
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村  
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)  
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)  
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)  
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(一助)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)  
執行役員社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺藏人
- ・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)  
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト  
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイン(株)  
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)  
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)  
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(一助)日本放送協会共済会  
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ  
代表取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規
- ・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)  
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
澁谷直樹
- ・(株)日立製作所  
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公財)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義
- ・(株)ボケモン  
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 楠木真澄
- ・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 大山一也

- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)  
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス  
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園  
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎  
執行役員社長 | 三井田 健
- ・メットライフ生命保険(株)  
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- ・(株)目の眼  
社主 | 櫻井 恵

- ・(株)モメンタム ジャパン  
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 西村 淳
- ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 坂元 隆

- ・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
木村和宏
- ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ROOM(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功
- ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 中野健次
- ・YCC(株)  
社長 | 中山武之
- ・渡辺敦郎・優子  
  
(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしく願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

# NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

特別コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

## 第1ヴァイオリン

- 青木 調  
宇根京子  
大鹿由希  
○倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
村尾隆人  
○山岸 努  
○横島礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎  
◎森田昌弘  
木全利行  
齋藤麻衣子  
○嶋田慶子  
○白井 篤  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦  
矢津将也

山田慶一  
横山俊朗  
米田有花

## ヴィオラ

- ◎佐々木 亮  
◎村上淳一郎  
☆中村翔太郎  
小野 聡  
小島茂隆  
□坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村洋乃理  
松井直之  
三国レイチェル由依  
# 御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

- ◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
○中 実徳  
○西山健一  
藤村俊介  
宮坂拓志  
村井 将  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

- ◎吉田 秀  
○市川雅典  
稲川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
佐川裕昭  
○西山真二  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

- ◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真歩  
中村淳二

## オーボエ

- ◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

- ◎伊藤 圭  
◎松本健司  
# 山根孝司  
和川聖也

## ファゴット

- ◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

- ◎今井仁志  
石山直城  
勝俣 泰  
木川博史  
庄司雄大  
野見山和子

## トランペット

- ◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

- ◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
黒金寛行  
吉川武典

## チューバ

- 池田幸広

## ティンパニ

- ◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

- 石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハープ

- 早川りさこ

## ステージ・マネージャー

- 徳永匡哉  
黒川大亮

## ライブラリアン

- 沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

# Information

## 退団

チェロ 三戸正秀(さんのへまさひで) 2023年4月30日付で退団。  
フルート 菅原 潤(すがわらじゅん) 2023年4月30日付で退団。

## 訃報

当団元チェロ奏者で団友の桑田歩(くわたあゆむ)氏が2023年4月5日に逝去されました。享年57。同氏は茨城県土浦市出身。群馬交響楽団、新星日本交響楽団の首席奏者を経て1999年1月にN響入団。次席奏者、首席代行奏者を務めるなど、チェロ・セクションの中核として当団のサウンドを支えてきました。2020年5月の退団後には新日本フィルハーモニー交響楽団で首席奏者などを務める一方、指揮に取り組むなどその音楽への情熱は最期まで衰えることを知りませんでした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 「N響ガイド」および「WEBチケットN響」のサービス移行のお知らせ(2023年6月29日～)

この度、よりよいお客様サービス提供のために、チケット販売サービスについてびあ株式会社と提携いたします。これに伴い、チケット販売システムをリニューアルいたします。

新サービスへの移行は2023年6月29日(木)からとなり、「N響ガイド」および「WEBチケットN響」は以下の通り変わります。

	6/27(火)まで	6/29(木)から
WEBチケットN響	<a href="https://ticket.nhkso.or.jp">https://ticket.nhkso.or.jp</a>	<a href="https://nhkso.pia.jp">https://nhkso.pia.jp</a> ※ご利用には改めて利用登録が必要となります(6/1～受付開始予定)。
N響ガイド(電話営業のみ)	TEL 03-5793-8161 ・営業時間：11:00am～5:00pm ・定休日：土・日・祝日／ 定期公演Aプログラムの翌月曜日	TEL 0570-02-9502 ・営業時間：10:00am～5:00pm ・定休日：土・日・祝日

発売開始日は  
10:00AMからの  
受付に  
変わります。

※6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止させていただきます。

※主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業いたします。

※発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻～3:00pmの営業となります。

2023年7月上旬より、  
ユースチケット1回券をWEBチケットN響でもご購入いただけるようになります(要事前登録)。  
新サービスに関する詳しいご案内はN響ホームページをご覧ください。



## 曲目解説執筆者

小宮正安(こみや まさやす)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・都市科学部教授。専門はヨーロッパ文化史、ドイツ文学。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト——「悪妻」伝説の虚実』『ヨハン・シュトラウス——ワルツ王と落日のウィーン』、訳書に『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から』『チャールズ・バーニー音楽見聞録(ドイツ篇)』など。

沼野雄司(ぬまの ゆうじ)

桐朋学園大学音楽学部教授。博士(音楽学)。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。多くの国際学会で研究発表を行うほか、著書に『音楽学への招待』『現代音楽史——闘争しつづける芸術のゆくえ』『エドガー・ヴァレーズ——孤独な射手の肖像』『ファンダメンタルな楽曲分析入門』『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ——前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

野平一郎(のだいら いちろう)

作曲家、ピアニスト。東京藝術大学、同大学院を修了後、バリ国立高等音楽院に学ぶ。ピアニストとして、内外の主要オーケストラにソリストとして出演する一方、室内楽奏者としても活躍。古典から現代まで、そのレパートリーは幅広い。これまでに発表した作品は140曲以上に及ぶ。現在、東京音楽大学学長、東京文化会館音楽監督。2012年紫綬褒章受章、2018年日本芸術院賞受賞。

(五十音順、敬称略)

いつでも どこでも、NHKの番組を。

# NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・  
パソコン・テレビ<sup>※1</sup>で  
放送から1週間<sup>※2</sup> 何度でも



アプリで便利に！

※1 テレビでは放送し番組配信のみ

※2 地域の一部は延長2週間配信

お楽しみいただけます！

メールアドレスとパスワードを入力するだけで  
すぐに見逃し配信をご覧ください

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

## NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても  
楽しめる！

## 聴き逃し

放送終了後1週間 / 聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRコードを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、  
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Sunao Goko

## 1st Violins

- Shirabe Aoki  
Kyoko Une  
Yuki Oshika  
○ Ryota Kuratomi  
Ko Goto  
Tamaki Kobayashi  
Toshihiro Takai  
Yuki Naoi  
Yumiko Nakamura  
Takao Furihata  
○ Hiroyuki Matsuda  
Nana Miyagawa  
Ryuto Muraō  
○ Tsutomu Yamagishi  
○ Masamichi Yokoshima  
○ Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya  
◎ Masahiro Morita  
Toshiyuki Kimata  
Maiko Saito  
○ Keiko Shimada  
○ Atsushi Shirai  
○ Akiko Tanaka  
Kirara Tsuboi  
Yosuke Niwa  
Kazuhiko Hirano  
Yoko Funaki  
Kenji Matano  
○ Haruhiko Mimata  
Masaya Yazu  
Yoshikazu Yamada  
Toshiro Yokoyama  
Yuka Yoneda

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki

- ◎ Junichiro Murakami  
☆ Shotaro Nakamura  
Satoshi Ono  
Shigetaka Obata  
□ Gentaro Sakaguchi  
Mayumi Taniguchi  
Hiroto Tobisawa  
○ Hironori Nakamura  
Naoyuki Matsui  
Rachel Yui Mikuni  
# Yuya Minorikawa  
○ Ryo Muramatsu  
Yuji Yamada

## Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto  
◎ Ryoichi Fujimori  
Hiroya Ichi  
Yukinori Kobatake  
○ Miho Naka  
○ Ken'ichi Nishiyama  
Shunsuke Fujimura  
Hirosaki Miyasaka  
Yuki Murai  
○ Shunsuke Yamanouchi  
Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida  
○ Masanori Ichikawa  
Eiji Inagawa  
○ Jun Okamoto  
Takashi Konno  
Hiroaki Sagawa  
○ Shinji Nishiyama  
Tatsuro Honma  
Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai  
◎ Hiroaki Kanda  
Maho Kajikawa  
Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura  
Shoko Ikeda  
Izumi Tsuboike  
Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito  
◎ Kenji Matsumoto  
# Takashi Yamane  
Seiya Wakawa

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin  
◎ Kazusa Mizutani  
Yuki Sato  
Keiko Sugawara  
Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai  
Naoki Ishiyama  
Yasushi Katsumata  
Hirosaki Kigawa  
Yudai Shoji  
Kazuko Nomiya

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto  
◎ Tomoyuki Hasegawa

- Tomoki Ando  
Eiji Yamamoto

## Trombones

- ◎ Hikaru Koga  
◎ Mikio Nitta  
Ko Ikegami  
Hiroyuki Kurogane  
Takenori Yoshikawa

## Tuba

- Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Toru Uematsu  
◎ Shoichi Kubo

## Percussion

- Tatsuya Ishikawa  
Hidemi Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

- Risako Hayakawa

## Stage Manager

- Masaya Tokunaga  
Daisuke Kurokawa

## Librarian

- Akane Oki  
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)



## PROGRAM

A

Concert No.1983

NHK Hall

May

13 (Sat) 6:00pm

14 (Sun) 2:00pm

conductor Tatsuya Shimono

violin Baiba Skride\*

concertmaster Sunao Goko

**Sergei Rakhmaninov**  
**Songs Op. 34 – *The Raising of Lazarus* (arr. Shimono), *Vocalise* [9']**

- Due to conductor's request, two works will be performed in succession.

**Sofia Gubaidulina**  
***Offertorium*\* [38']**

— intermission (20 minutes) —

**Antonín Dvořák**  
***Symphony No. 7 D Minor Op. 70* [37']**

- I Allegro maestoso
- II Poco adagio
- III Scherzo: Vivace
- IV Finale: Allegro

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

**Tatsuya Shimono, conductor**

© Naoya Yamaguchi

Born in 1969, Tatsuya Shimono studied conducting at the Toho Gakuen School of Music, obtained a diploma in conducting at the Chigiana Musical Academy in Siena, Italy, and further studied at the University of Music and Performing Arts Vienna. After winning the Tokyo International Music Competition for Conducting in 2000, and the 1st prize at the Besançon International Competition in the following year, he garnered the world's attention and launched his career conducting orchestras at home and abroad. He has served as Resident Conductor and Principal Guest Conductor of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Music Director of the Hiroshima Wind Orchestra, and Permanent Guest Conductor and Principal Guest Conductor of the City of Kyoto Symphony Orchestra, and since 2017, he has been greatly contributing to the further development of the Hiroshima Symphony Orchestra as its Music Director. He first worked with the NHK Symphony Orchestra in 2005, and since then, has conducted on many occasions including its subscription series.

Facing music squarely and conveying its true value to audiences by his excellent conducting technique and expressive skills – his way of such music making has won high acclaim. He enjoys a wide repertoire ranging from classical to contemporary, at the same time, he is keen to explore works which have been out of the limelight. His program making may sometimes seem unconventional, however, it actually contains his message. On this occasion, through the first half of his program which is made up of Rakhmaninov's *Songs* (arr. for orchestra) and Gubaidulina's Concerto, both of which have religious content, you can hear his sincere appeal for the current turmoil in the world. In the second half, he placed Dvořák's symphony, one of his most favored composers. He is so much attached to this composer that he completed all of Dvořák's symphonies when he was Resident Conductor of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, therefore he will deliver a masterly performance on this occasion as well.

---

## Baiba Skride, violin



Baiba Skride was born to a musical family in Latvia and studied music in Riga and at the Conservatory of Music and Theatre in Rostock. In 2001, she won the 1st prize at the Queen Elisabeth Competition for violin. She has performed as a soloist with renowned orchestras such as the Berliner Philharmoniker, the Royal Concertgebouw Orchestra, the Boston Symphony Orchestra, and the Chicago Symphony Orchestra. The emotional performance of Shostakovich's 1st Violin Concerto with the Gewandhausorchester Leipzig on its Japan tour in 2019 is still vivid in our memory. She has made numerous recordings of concertos by Mozart, Schumann, Brahms, Tchaikovsky, Stravinsky, Janáček, Szymanowski, Sibelius, Nielsen, Bartók and Korngold while actively working on the compositions of Sofia Gubaidulina in recent years, and with the Gewandhausorchester Leipzig, she performed both her *Triple Concerto* to open the orchestra's new season in September 2021, and *Offertorium* to celebrate the composer's 90th birthday in November in the same year. In the following month, she played her 3rd Violin Concerto *Dialogue: I and You* with the hr-Sinfonieorchester. She has worked with the NHK Symphony Orchestra back in 2012 and 2018, but this is her first appearance in its subscription concerts.

[Tatsuya Shimono by Motoyuki Teranishi, music critic, Baiba Skride by Haruo Yamada, music critic]

**Sergei Rakhmaninov (1873–1943)****Songs Op. 34–*The Raising of Lazarus* (arr. Shimono), *Vocalise***

The Russian composer Rakhmaninov, also a world-class pianist, left us masterpieces for his instrument. Alongside them, he wrote quite a number of songs for voice and piano of timeless beauty all of which were born before 1917 when he left for good his motherland caught up by the Revolutionary storm.

*Vocalise* Op. 34-14 for soprano (or tenor) and piano is his best-known song for its plaintive tune and mesmeric aura. Composed in 1915 to be added to Op. 34 (described later), the song has no words. A vocalise is an exercise without lyrics for singers to use only vowel(s) or syllable(s), but Rakhmaninov took advantage of the wordlessness to attain an utmost emotional eloquence. Following the successful premiere, he arranged it for voice and orchestra as well as for orchestra alone.

Op. 34, originally a series of thirteen songs for soprano (or tenor) and piano, was completed in 1912. The sixth of the set, *The Raising of Lazarus* is a setting of a poem by the Russian theologian and poet Aleksey Khomyakov (1804–1860). In the Bible, Christ brings his friend Lazarus to life, which is often interpreted as an omen of the Resurrection. The song praises this miracle, but also the Redemption and the glorious revival of Christ. The orchestral version performed today was prepared by the conductor Tatsuya Shimono himself who is well versed in Rakhmaninov’s scoring techniques.

**Sofia Gubaidulina (1931–)*****Offertorium***

One of the greatest figures of modern music, Gubaidulina was born in the Tatar region under the Soviet Union and studied composition in Moscow. A notable event of her activities after graduation is the co-foundation in the mid-1970s of the ensemble “Astreja” whose concern was improvising with folk instruments. Many of her orchestral works are indeed marked by extended (unconventional) techniques, unique instrumental combinations or/and choice of rare instruments. Another important aspect of her music is the spiritualness derived from her Orthodox beliefs.

*Offertorium* is a violin concerto written at the request of the violinist Gidon Kremer who first performed it in 1981 in Vienna. This brought an immediate response from the West, leading to her reputation outside the USSR. After the Perestroika, she would move to West Germany.

*Offertorium* can be considered a three-part concerto performed seamlessly. The title suggests a section of Mass sung when bread and wine are “offered” to remember Christ’s death and resurrection, while the work is about sacrifice and offering in a broad sense, both religious and non-religious. The first part is a series of variations on the “theme of king” on which J. S. Bach (1685–1750) composed his *Musical Offering* (1747). At the opening, Gubaidulina has each note of the theme played by a different instrument, following the Klangfarbenmelodie (sound-color melody) technique that Anton Webern (1883–1945) used when he orchestrated a ricercare from *The Musical Offering* in 1935. Symbolically,

Gubaidulina leaves the last note (here D) of the theme out. The theme gradually shortens — “offering” notes like the atoning sacrifice — every time a new variation begins until there remains only the central two notes. The middle part treats the theme’s fragments freely, then timpani and tam-tam (gong) announce the final, chorale-like part. Harps and piano restore gradually, note by note, the theme in retrograde. The solo violin finally pronounces the entire theme, still backward, at the cadenza (without orchestra) to reach the high D note which is prolonged till the end as if alluding to the Resurrection.

**Antonín Dvořák (1841–1904)**

## Symphony No. 7 D Minor Op. 70

In the late 1870s, Johannes Brahms (1833–1897) recommended his publisher Simrock issuing works by a young, obscure yet promising composer. It would help this lucky Czech man no other than Dvořák to be quickly known both on the European Continent and in the UK.

Dvořák hence first-crossed the Channel in 1884. He conducted his own works in London creating a great sensation, so the local Royal Philharmonic Society, known for commissioning Beethoven’s Ninth Symphony, requested Dvořák to compose a new symphony. It was apropos, as he had been deeply impressed by Brahms’ latest Symphony No. 3 (1883) and committed himself to writing a work on a par with it. Shortly in 1885, Dvořák’s Seventh was completed and premiered in London. The acclaim it immediately won in Europe ensured his solid position as an internationally established composer.

The Seventh might surprise the listener by its overall Austro-Germanic sternness and tenseness presented by the composer who is celebrated for his folklore-inspired sunny, melodious writing. Also, the symphony clearly reflects the rising Czech nationalism of the period. The outer movements are in sonata form. They are in D minor, the key of Brahms’ *Tragic Overture* (1880) and Beethoven’s Ninth (1824), but the finale concludes majestically in D major like, again, Beethoven’s Ninth. The first movement opens with the gloomy first theme on violas and cellos, then Dvořák quotes the melodies, one militant and the other lyrical, from his patriotic *Hussite Overture* (1883). (Hussites are the followers of the Czech theologian Jan Hus, a precursor of Protestant Reformers, who was executed for heresy in 1415 and later became a national hero.) The second movement is in A–B–A form. The central B section’s longing theme revealed by horn is as appealing as the famed English horn tune of his Symphony *From the New World*. The most typical of Dvořák among the four movements is the folkish third. This Scherzo’s rhythmically vivacious main section is a stylized furiant, a Czech rapid dance.

**Kumiko Nishi**

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

## PROGRAM

B

Concert No.1985

Suntory Hall

May

24 (Wed) 7:00pm

25 (Thu) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi

horn

Nobuaki Fukukawa

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki, Sunao Goko

**Franz Joseph Haydn**  
**Symphony No. 82 C Major**  
**Hob. I-82, *The Bear* [27']**

- I Vivace assai
- II Allegretto
- III Menuetto – Trio
- IV Finale: Vivace

**Wolfgang Amadeus Mozart**  
**Horn Concerto No. 3 E-flat Major**  
**K. 447 [16']**

- I Allegro
- II Romance: Larghetto
- III Allegro

— intermission (20 minutes) —

**Ludwig van Beethoven**  
**Symphony No. 6 F Major Op. 68,**  
***Pastoral* [40']**

- I Angenehme, heitere Empfindungen, welche bei der Ankunft auf dem Lande im Menschen erwachen: Allegro ma non troppo
- II Szene am Bach: Andante molto moto
- III Lustiges Zusammensein der Landleute: Allegro
- IV Donner, Sturm: Allegro
- V Hirtengesang, Wohltätige, mit Dank an die Gottheit verbundene Gefühle nach dem Sturm: Allegretto

- All performance durations are approximate.

B

24 &amp; 25, MAY, 2023

## Artist Profiles

## Fabio Luisi, conductor



Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. In September 2022, he assumed the position of Chief Conductor of the NHK Symphony Orchestra, Tokyo.

Fabio Luisi was Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal

Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, and Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the London Symphony Orchestra, the Concertgebouworkest, and the Saito Kinen Orchestra, while also conducting operas at world's major opera houses.

Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's *Siegfried* and *Götterdämmerung* with the Metropolitan Opera won Grammy awards.

---

## Nobuaki Fukukawa, horn



Nobuaki Fukukawa, one of the most exciting horn players of our time, appears in solo performances as well as with orchestras, in a wide variety of chamber music concerts and music festivals at home and abroad. He is at the forefront in the field of wind instruments and Riccardo Muti and Paavo Järvi have given him unstinted praise. Mozart's Horn Concertos, naturally, are his most favourite works, and he made recordings of

Mozart's complete horn concertos under the baton of Masato Suzuki in February 2021.

He studied at Musashino Academia Musicae, and while still in school, performed with the Japan Philharmonic Orchestra, and eventually joined the orchestra. After assuming the position of Principal Horn, he took leave for one year in 2006 to go to Britain to study under the tutelage of David Pyatt, who was then Principal Horn of the London Symphony Orchestra. During that time, he had an opportunity to play in the orchestra. He won first prize at the 77th Japan Music Competition (horn section) in 2008, and in 2013, joined the NHK Symphony Orchestra where later he was appointed as the principal player and enjoyed much responsibility until March 2021. He held a recital at the prestigious Wigmore Hall in London in January 2019. Also being a virtuoso of natural horn and baroque horn, he has performed in concerts of the Bach Collegium Japan. Many composers including Joe Hisaishi and Dai Fujikura have dedicated their works to him. He is a member of Tokyo Sextet with woodwinds and piano, Councilor of the International Horn Society Advisory Council and Associate Professor of Tokyo College of Music.

[Nobuaki Fukukawa by Yoshimichi Okuda, music critic]

**Franz Joseph Haydn (1732–1809)**

## Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, *The Bear*

Given the deserved title “Father of Symphony” in music history today, Haydn established the Classical symphony with his over hundred works.

When accepting a commission from France in 1784, the Austrian composer, in his fifties, had been already renowned in Europe: he would complete six works called nowadays *Paris Symphonies* (Nos. 82–87) for Concert de la Loge Olympique, a Paris-based society having a high-grade orchestra. It became a new acoustic adventure for Haydn as the ensemble was quite a bit larger than the one of the Esterházy court, his longtime workplace. Among the *Paris Symphonies*, No.82 sounds particularly festive due to the use of timpani and brass instruments. It was first performed in Paris in 1787, two years before the Storming of the Bastille.

No. 82 has a fanfare-like commencement heralding immediately the first sonata theme, a simple but brilliant melody based on the C-major triad. The slow second movement contains double variations on two contrastive melodies, one is in F major and the other in F minor. The next movement is a noble minuet which must have fascinated the audience in Paris during the Old Regime. The finale starts with a low droning C note above which a light-hearted tune is presented. Some say that No. 82 was given its sobriquet, but not by the composer himself, for the opening evokes bears dancing at fairs. This tune recurs repeatedly during the coda before closing the symphony energetically.

**Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)**

## Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447

Mozart composed at least twenty-three original piano concertos for himself to be the soloist. On the other hand, we must be grateful to a man named Joseph Leutgeb for forming a deep bond of friendship with Mozart and being an outstanding horn virtuoso. In fact, it was for him that the gifted composer wrote all his four horn concertos. Incidentally, Haydn’s Horn Concerto No. 1 (1762) is said to be composed for Leutgeb, too.

Mozart penned his Horn Concerto No. 3 in around 1787, thus in the same period as his opera *Don Giovanni* and the above-mentioned symphony *The Bear* by Haydn whom he admired profoundly. As with other three concertos, Mozart intended No. 3 to be played with the natural valve-less horn, as the modern horn with valves would not be in use until the 19th century. In the days of Mozart, hornists altered pitches by vibrating their lips and pushing their hand into the bell.

From the first Allegro sonata movement, No. 3 has the horn part in close cooperation with the orchestra composed of strings, clarinets and bassoons. The middle movement is a lyrical Romance of which the horn sings the main melody at the outset. The finale, a galloping rondo, suggests a hunting scene where the horn had been originally used. Here Mozart makes us smile, reusing momentarily the main melody of the middle movement, but now at high speed.

## Symphony No. 6 F Major Op. 68, *Pastoral*

The former – momentary – pupil of Haydn, Beethoven penned his Symphony No. 6 from 1807 to 1808. It was premiered in December 1808 in Vienna together with its exceedingly famous symphonic sibling No. 5 (*Destiny*). The two works are generally regarded as worlds apart, No. 6 being considered much more moderate in respect of style and character like his other even-numbered symphonies. However, it is in reality as epochal as No. 5 in another way, as it blazed a trail for future programmatic symphonies with the genuine Romantic spirit such as *Symphonie fantastique* (1830) by Berlioz and acres of symphonic (tone) poems.

Worthy of mention is that No. 6 is Beethoven's only symphony having five movements (moreover, the last three ones are performed continuously) and official programmatic contents: he called the work “Pastoral Symphony, or Recollections of Country Life” and imparted each movement a detailed, descriptive subtitle. Nevertheless, he reminded us about his ultimate objective, emphasizing that the work is “more an expression of feeling than tone-painting.”

This novel stance is explicitly found in the subtitle of the literally-pastoral first movement “Awakening of cheerful feelings on arrival in the countryside.” The listeners may well project this protagonist with “feelings” on Beethoven himself who loved spending time in nature. He ingeniously built this entire sonata movement with the opening melodic/rhythmic motifs heard on the first violins (A–B flat–D–C / C–B flat–A–G–C). The most realistic and picturesque is the second movement “Scene by the brook.” Here, the composer even specifies which birds solo wind instruments embody during the cadenza-like moment towards the end: nightingale (flute), quail (oboe) and cuckoo (clarinets). The next merry scherzo is said to parody a-little-lazy rural bandmen at moments. The fourth movement is scored for the largest orchestra of the whole symphony including timpani and piccolo which portray thunder and lightning respectively. The finale, or “Shepherd’s song. Cheerful and grateful feelings after the storm,” closes the symphony in piece giving thanks to the Creator.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 50



## PROGRAM

C

Concert No.1984

NHK Hall

May

19 (Fri) 7:30pm

20 (Sat) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 51

piano

Pascal Rogé

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

## [Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 19th from 6:45pm / Saturday 20th from 1:15pm

Hiroaki Kanda(fl.), Yuki Oshika(vn.), Ryo Sasaki(va.), Miho Naka(vc.), Risako Hayakawa(hp.)

Ropartz / *Prélude, Marine et Chansons*—I. *Prélude* & III. *Chansons*

\* You may enter and leave as you please during the performance. \* Enjoy chamber music from your own seat.

**Camille Saint-Saëns**  
**Piano Concerto No. 5 F Major**  
**Op. 103, *The Egyptian* [27']**

- I Allegro animato
- II Andante
- III Molto allegro

**César Franck**  
**Symphony D Minor [37']**

- I Lento – Allegro non troppo
- II Allegretto
- III Allegro non troppo

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

## Artist Profile

## Pascal Rogé, piano



© Aline Mito

Pascal Rogé, the French virtuoso known for his bright, clear sound, and graceful and gleaming performance, will return to the NHK Symphony Orchestra's subscription concert after a long interval. He was born to a musical family in Paris, and after winning the Long-Thibaud International Competition in 1971, has long been a renowned soloist working with leading orchestras worldwide as well as an outstanding chamber musician. Since his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra in 1977 performing Ravel's concerto under the baton of Yuzo Toyama, he has fascinated his fans at the orchestra's subscription concerts by playing works such as Saint-Saëns' 2nd Piano Concerto

C

19 &amp; 20 MAY 2023

and Poulenc's *Aubade*.

Although he has a wide repertoire ranging from classics to contemporary, I assume his specialty may be modern French works. In his collaboration with Fabio Luisi, Saint-Saëns' Piano Concerto No. 5 *The Egyptian* was chosen. Saint-Saëns, known as a child prodigy like Mozart, was a renowned pianist as well as a prolific composer ranging from instrumental to operatic works and film music. *The Egyptian* is one of his masterpieces embellished with dazzling technique and stylish sound. Therefore, it is not too much to say that this is exactly the work which will well display Monsieur Rogé's forte.

[Pascal Rogé by Seiko Ito, music critic]

---

## Program Notes | Kumiko Nishi

---

### Camille Saint-Saëns (1835–1921)

---

## Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, *The Egyptian*

Born in Paris, Saint-Saëns was an uncommon musical genius wearing several hats as a pianist, organist, composer, conductor and critic. Furthermore, the superhuman was well versed in astronomy, languages, mathematics, archaeology and so on. This natural curiosity also let him frequently depart for distant places around the world. His favorite destination was Algeria, then a French colony, and he sometimes went a little way further to Egypt.

Saint-Saëns' fifth and last piano concerto was composed in 1896 while he was staying in Luxor, Egypt. It was premiered the same year by the sixty-one-year-old composer as the soloist during the successful concert at the Salle Pleyel in Paris celebrating the fiftieth anniversary of his pianist debut there. The work is thus a witness to the stunning virtuosity and stamina this phenomenal pianist maintained at the time, yet the first sonata movement commences reservedly with the unadorned, chorale-style first theme on the piano. The solo part soon begins to hum with pianistic runs before the tenser D-minor second theme appears. The concerto's byname, not by Saint-Saëns himself though, came from orientalism — in its broadest sense — prevailing the second movement. From its beginning, our composer-traveler makes lavish use of exotic intervals to create a Spanish and Middle-eastern mood. The dulcet air crooned during the middle section is reminiscent of boatmen singing a Nubian love song Saint-Saëns heard while sailing the Nile. Then some habitants of this famous river, frogs and crickets, are musically depicted. Before the main section returns, we even hear a sound evocative of Javanese gamelan. Away from the exoticism, the finale, a quasi-acrobatic toccata teemed with pianistic feats, closes the work at the height of its feverishness.

### César Franck (1822–1890)

---

## Symphony D Minor

19th-century France fussed over the opera and ballet, while long minimizing the non-programmatic symphony. A turning point was the 1871 defeat at the Franco-German War: the rising nationalism pushed domestic composers to create French masterpieces comparable

to German symphonic achievements, Saint-Saëns' Symphony *with Organ* (premiered in 1886) being in the vanguard. A most representative of this tide is Franck's Symphony in D minor (premiered in 1889) ironically, as he was from Belgium — born in Liège to a German/Walloon couple to be active in Paris later—, and also the contemporary French music world held him in slight esteem. The mainstream condemned the Symphony in D minor at the first performance in Paris, although his fervent partisans called “Franckists” praised it.

Franck's style is indeed readily differentiated from the typical French composers'. On the model of Bach, Beethoven, Liszt and Wagner, Franck acquired a sort of Austro-Germanic logic and rigor to gain his own style. Moreover, his expertise as a church organist — namely as an improviser — is definitely connected with his thick, massive orchestral sound and constant harmonic change. All of these qualities are integrated in the Symphony in D minor written in his closing years.

The work takes a cyclic form, Franck's hallmark: at the beginning of the first sonata movement, low strings present a questioning cyclic motif which would recur throughout the entire piece to unify it. This motif might imply Beethoven's last string quartet, more concretely its motif accompanied by the phrase “Muss es sein (Must it be) ?” The middle movement inventively combines a traditional slow movement (section A) and scherzo (B) in A–B–A&B form. Its opening melancholic tune by English horn contains the cyclic motif, and this tune reappears as the second theme of the finale which recalls the previous movements' main themes “as in Beethoven's Ninth Symphony” (according to Franck). Interestingly enough, Guy Ropartz, Franck's pupil, named the finale's songful first theme given by cellos and bassoon the “theme of rejoicing.”



**Kumiko Nishi**

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 50

# The Subscription Concerts Program 2022–23

**A NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B Suntory Hall**  
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C NHK Hall**  
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023 05	<b>A</b>	Concert No. <b>1983</b> <b>May</b> 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall	<b>Rakhmaninov</b> Songs Op. 34 – <i>The Raising of Lazarus</i> (arr. Shimono), <i>Vocalise</i> <b>Gubaidulina</b> <i>Offertorium</i> * <b>Dvořák</b> Symphony No. 7 D Minor Op. 70  Tatsuya Shimono, conductor Baiba Skride, violin*	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	<b>B</b>	Concert No. <b>1985</b> <b>May</b> 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	<b>Haydn</b> Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, <i>The Bear</i> <b>Mozart</b> Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447 <b>Beethoven</b> Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>  Fabio Luisi, conductor Nobuaki Fukukawa, horn	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	<b>C</b>	Concert No. <b>1984</b> <b>May</b> 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm NHK Hall	<b>Saint-Saëns</b> Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, <i>The Egyptian</i> <b>Franck</b> Symphony D Minor  Fabio Luisi, conductor Pascal Rogé, piano	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
2023 06	<b>A</b>	Concert No. <b>1986</b> <b>June</b> 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm NHK Hall	<b>Prokofiev</b> <i>The Love for Three Oranges</i> Op. 33bis, symphonic suite <b>Prokofiev</b> Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16 <b>Casella</b> Symphonic Fragments from <i>La donna serpente</i> (Japan Première)  Gianandrea Noseda, conductor Behzod Abduraimov, piano* *Changed from initially scheduled.	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	<b>B</b>	Concert No. <b>1988</b> <b>June</b> 21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	<b>Bach / Respighi</b> <i>Three Chorales</i> <b>Respighi</b> <i>Concerto gregoriano</i> * <b>Rakhmaninov</b> Symphony No. 1 D Minor Op. 13  Gianandrea Noseda, conductor Sayaka Shoji, violin*	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
	<b>C</b>	Concert No. <b>1987</b> <b>June</b> 16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm NHK Hall	<b>Shostakovich</b> Symphony No. 8 C Minor Op. 65  Gianandrea Noseda, conductor	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

## Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
- Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

# The Subscription Concerts Program 2023–24

2023  
09

<b>A</b>	Concert No. <b>1989</b>	<b>R. Strauss</b> <i>Till Eulenspiegels lustige Streiche</i> , symphonic poem Op. 28 ( <i>Till Eulenspiegel's Merry Pranks</i> )	Ordinary	Youth
	<b>September</b> 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm	<b>R. Strauss</b> <i>Burleske</i> , D Minor* <b>R. Strauss</b> <i>Aus Italien</i> , symphonic fantasy Op. 16 ( <i>From Italy</i> )	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
NHK Hall		Fabio Luisi, conductor Martin Helmchen, piano*		

<b>B</b>	Concert No. <b>1991</b>	<b>Mozart</b> Symphony No. 29 A Major K. 201 <b>Mozart</b> Flute Concerto No. 2 D Major K. 314 <b>Mozart</b> Symphony No. 39 E-flat Major K. 543	Ordinary	Youth
	<b>September</b> 20 (Wed) 7:00pm 21 (Thu) 7:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall		Ton Koopman, conductor Hiroaki Kanda (Principal Flute, NHKSO), flute		

<b>C</b>	Concert No. <b>1990</b>	<b>Wagner / Vlieger</b> <i>The Ring, An Orchestral Adventure</i>	Ordinary	Youth
	<b>September</b> 15 (Fri) 7:30pm 16 (Sat) 2:00pm		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall		Fabio Luisi, conductor		

2023  
10

<b>A</b>	Concert No. <b>1992</b>	<b>Bruckner</b> Symphony No. 5 B-flat Major	Ordinary	Youth
	<b>October</b> 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
NHK Hall		Herbert Blomstedt, conductor		

<b>B</b>	Concert No. <b>1994</b>	<b>Beethoven</b> Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> <b>Brahms</b> Symphony No. 3 F Major Op. 90	Ordinary	Youth
	<b>October</b> 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall		Herbert Blomstedt, conductor Leif Ove Andsnes, piano		

<b>C</b>	Concert No. <b>1993</b>	<b>Nielsen</b> <i>Aladdin</i> , suite Op. 34— <i>Oriental Festive March, Hindu Dance</i> , <i>The Market Place in Ispahan, Negro Dance</i> <b>Sibelius</b> Symphony No. 2 D Major Op. 43	Ordinary	Youth
	<b>October</b> 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall		Herbert Blomstedt, conductor		

2023  
11

<b>A</b>	Concert No. <b>1997</b>	<b>Sviridov</b> <i>Small Triptych</i> <b>Prokofiev</b> <i>War and Peace</i> , opera Op. 91— <i>Waltz</i> in scene 2 <b>Anton Rubinstein</b> Ballet Music from <i>The Demon</i> , opera — <i>Dance of Girls</i> *	Ordinary	Youth
	<b>November</b> 25 (Sat) 6:00pm 26 (Sun) 2:00pm	<b>Glinka</b> <i>Ivan Sussanin</i> , opera— <i>Krakowiak</i> <b>Rimsky-Korsakov</b> <i>Snow Maiden</i> , suite <b>Tchaikovsky / Fedoseyev</b> <i>The Sleeping Beauty</i> , ballet suite	S 9,100 A 7,600 B 5,900 C 4,800 D 3,800 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
NHK Hall		Vladimir Fedoseyev, conductor *Changed from original program.		

<b>B</b>	Concert No. <b>1996</b>	<b>Sibelius</b> <i>Tapiola</i> , symphonic poem Op. 112 <b>Stravinsky</b> Violin Concerto in D <b>Sibelius</b> Symphony No. 1 E Minor Op. 39	Ordinary	Youth
	<b>November</b> 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall		Jukka-Pekka Saraste, conductor Pekka Kuusisto, violin		

<b>C</b>	Concert No. <b>1995</b>	<b>Bartók</b> <i>Hungarian Pictures</i> <b>Liszt</b> <i>Hungarian Fantasy</i> * <b>Kodály</b> <i>Háry János</i> , suite	Ordinary	Youth
	<b>November</b> 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall		Gergely Madaras, conductor Tomoki Sakata, piano*		

(consumption tax included)

**A NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B Suntory Hall**  
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C NHK Hall**  
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023  
12

**A** Concert No. **2000**  
**December**  
16 (Sat) 6:00pm  
17 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

The 2000th Subscription Concerts

**Mahler** *Symphony No. 8 E-flat Major, Symphonie der Tausend (Symphony of Thousand)*  
Fabio Luisi, conductor Elena Stikhina, Valentina Farcas, Rie Miyake, sopranos  
Olesya Petrova, Catriona Morison, altos Michael Schade, tenor  
Luke Sutliff, baritone David Steffens, bass  
New National Theatre Chorus, chorus  
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,200
D 5,000	D 2,500
E 3,300	E 1,600

**B** Concert No. **1999**  
**December**  
6 (Wed) 7:00pm  
7 (Thu) 7:00pm  
Suntory Hall

**Haydn** *Symphony No. 100 G Major Hob. I-100, Military*  
**Liszt** *Piano Concerto No. 1 E-flat Major*  
**Reger** *Variations and Fugue on a Theme by Mozart Op. 132*

Fabio Luisi, conductor  
Alice-Sara Ott, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

**C** Concert No. **1998**  
**December**  
1 (Fri) 7:30pm  
2 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Humperdinck** *Hansel und Gretel, opera—Prelude (Hensel and Gretel)*  
**Berlioz** *Symphonie fantastique, Op. 14 (Fantastical Symphony)*

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024  
01

**A** Concert No. **2001**  
**January**  
13 (Sat) 6:00pm  
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Bizet / Shchedrin** *Carmen Suite*, ballet  
**Ravel** *Ma mère l'Oye, suite (Mother Goose)*  
**Ravel** *La valse*, ballet

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

**B** Concert No. **2003**  
**January**  
24 (Wed) 7:00pm  
25 (Thu) 7:00pm  
Suntory Hall

**Mozart** *Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364*  
**Beethoven** *Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, Eroica (Heroic Symphony)*

Tugan Sokhiev, conductor  
Sunao Goko (Guest concertmaster, NHKSO), violin\*  
Junichiro Murakami (Principal Viola, NHKSO), viola  
\*Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

**C** Concert No. **2002**  
**January**  
19 (Fri) 7:30pm  
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Liadov** *Kikimora, légende Op. 63*  
**Prokofiev / Sokhiev** *Romeo and Juliet*, ballet suite

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024  
02

**A** Concert No. **2004**  
**February**  
3 (Sat) 6:00pm  
4 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Johann Strauss II** *Im Krapfenwald'l*, polka française Op. 336 (*In Krpfen's Woods*)  
**Shostakovich** *Suite for Variety Orchestra No. 1*  
—*March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II*  
**Shostakovich** *Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, Babí Yar\**

Michiyoshi Inoue, conductor  
Evgeny Stavinsky, bass\* Orphei Drängar, male chorus\*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

**B** Concert No. **2006**  
**February**  
14 (Wed) 7:00pm  
15 (Thu) 7:00pm  
Suntory Hall

**Ravel** *Rapsodie espagnole (Spanish Rhapsody)*  
**Prokofiev** *Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63*  
**Falla** *El sombrero de tres picos*, ballet (complete) (*The Three-Cornered Hat*)\*  
Pablo Heras-Casado, conductor  
Augustin Hadelich, violin  
Tamayo Yoshida, soprano\*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

**C** Concert No. **2005**  
**February**  
9 (Fri) 7:30pm  
10 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Wagner** *Siegfried Idyll*  
**R. Strauss** *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Eiji Oue, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

(consumption tax included)

**Program C**

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.  
 - Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

**2024  
04**

<b>A</b>	Concert No. <b>2007</b>	<b>Schubert</b> Symphony No. 4 C Minor D. 417 <b>Brahms</b> Symphony No. 1 C Minor Op. 68	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>April</b> 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm	Marek Janowski, conductor	S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000

<b>B</b>	Concert No. <b>2009</b>	<b>Schumann</b> <i>Genoveva</i> , opera Op. 81—Overture <b>Schumann</b> Cello Concerto A Minor Op. 129 <b>Schumann</b> Symphony No. 2 C Major Op. 61	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>April</b> 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm	Christoph Eschenbach, conductor Kian Soltani, cello	S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800

<b>C</b>	Concert No. <b>2008</b>	<b>Bruckner</b> Symphony No. 7 E Major	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>April</b> 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm	Christoph Eschenbach, conductor	S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800

**2024  
05**

<b>A</b>	Concert No. <b>2010</b>	<b>Panfilii</b> <i>Abitare la battaglia</i> [Japan Premiere] <b>Respighi</b> <i>Fontane di Roma</i> , symphonic poem ( <i>Fountains of Rome</i> ) <b>Respighi</b> <i>Pini di Roma</i> , symphonic poem ( <i>Pines of Rome</i> ) <b>Respighi</b> <i>Feste Romane</i> , symphonic poem ( <i>Roman Festivals</i> )	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>May</b> 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400

<b>B</b>	Concert No. <b>2012</b>	<b>Brahms</b> Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15 <b>Nielsen</b> Symphony No. 2 B Minor Op. 16, <i>The 4 Temperaments</i>	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>May</b> 22 (Wed) 7:00pm 23 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Rudolf Buchbinder, piano	S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800

<b>C</b>	Concert No. <b>2011</b>	<b>Mendelssohn</b> <i>A Midsummer Night's Dream</i> —Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March <b>Mendelssohn</b> Symphony No. 5 D Minor Op. 107, <i>Reformation</i>	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>May</b> 17 (Fri) 7:30pm 18 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800

**2024  
06**

<b>A</b>	Concert No. <b>2013</b>	<b>Scriabin</b> <i>Rêverie</i> , Op. 24 <b>Scriabin</b> Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20 <b>Scriabin</b> Symphony No. 2 C Minor Op. 29	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>June</b> 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm	Keitaro Harada, conductor Kyohei Sorita, piano	S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000

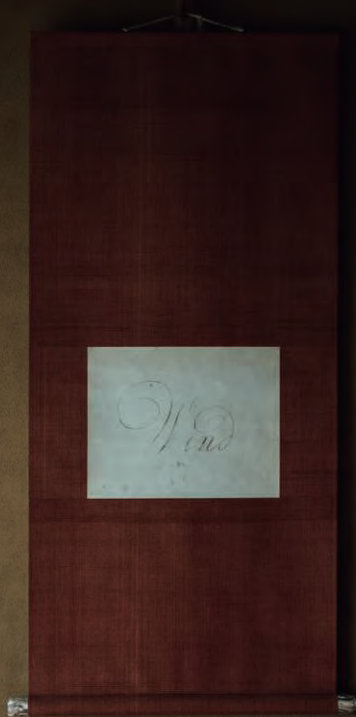
<b>B</b>	Concert No. <b>2015</b>	<b>Webern</b> Passacaglia Op. 1 <b>Schönberg</b> Violin Concerto Op. 36 <b>J. S. Bach / Webern</b> Ricercata <b>Schubert</b> Symphony No. 5 B-flat Major D. 485	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>June</b> 19 (Wed) 7:00pm 20 (Thu) 7:00pm	Masato Suzuki, conductor Isabelle Faust, violin	S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800

<b>C</b>	Concert No. <b>2014</b>	<b>Ibert</b> <i>Escales (Ports of Call)</i> <b>Ravel</b> Piano Concerto for the Left Hand <b>Debussy</b> <i>Nocturnes</i> *	<b>Ordinary</b> Youth
	<b>June</b> 14 (Fri) 7:30pm 15 (Sat) 2:00pm	Nodoka Okisawa, conductor Denis Kozhukhin, piano The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*	S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

(consumption tax included)

モノが語る 声を届ける



骨董・古美術月刊誌「目の眼」

5月号

古美術と現代アート

美が交わる地平線

6月号 | 5/15 発売

棟方志功のデザイン

もう一つの藝業

毎月15日発売 | 1,650円税込

最新号 WEB 無料公開中

目の眼



写真：月刊「目の眼」別冊「勝見充男大全」

menomeonline.com



いつまでも耳に残る  
極上の旋律に、  
心躍るひとときを。

N

響音

名曲コンサート  
2023

指揮

下野竜也

Tatsuya Shimono, conductor

ピアノ

小林海都

Kaito Kobayashi, piano

ドヴォルザーク

序曲「謝肉祭」作品92

Dvořák | Carnival, overture Op. 92

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K. 488

Mozart | Piano Concerto No. 23 A Major K. 488

ドヴォルザーク

交響曲 第3番 ト長調 作品88

Dvořák | Symphony No. 8 G Major Op. 88

Vyhlička Máj (チェコ、テレティーン村) からのモルダウ川の眺め

2023年9月28日[木] 7:00pm | サントリーホール

■ 発売開始: 5月17日[水] 11:00 am ■ N響定期会員先行発売: 5月11日[木] 11:00 am

■ 料金 (税込)

一般		ユースチケット(25歳以下)	
SS	¥8,500	SS	¥4,200
S	¥6,500	S	¥3,200
A	¥5,000	A	¥2,500
B	¥3,500	B	¥1,700
C	¥2,500	C	¥1,200

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響: 6月27日[火]まで <https://ticket.nhkso.or.jp>  
6月29日[木]から <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド: 6月27日[火]まで 03-5793-8161  
6月29日[木]から 0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター: 0570-55-0017  
[suntory.jp/HALL/](https://suntory.jp/HALL/)
- チケットぴあ: [pia.jp/t/nhkso](https://pia.jp/t/nhkso)
- e+ (イープラス): [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso)
- ローソンチケット: [l-tike.com/nhkso](https://l-tike.com/nhkso)

[お問い合わせ]

N響ガイド: 6月27日[火]まで 03-5793-8161

6月29日[木]から 0570-02-9502

(営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください)

※ユースチケットはN響ガイドに電話でお申し込みください(7月上旬よりWEBチケットN響でもご購入いただけます)。事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります。詳しくはN響ホームページでご確認ください。 ※定期会員割引・先行発売は、WEBチケットN響、N響ガイドのみの取り扱いとなります。 ※早い者勝ちについてはN響ガイドにお問い合わせください。 ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の営業日前となります。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※未成年のご入場はお断りしています。 ※公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

特別協賛:



株式会社 明電舎

主催: NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO



N響定期を75分で「いいとこどり」!

# N響

NHKSO  
Welcome  
Concert

# ウェルカム・コンサート

2023.8.3 [木] 7:00pm  
NHKホール (休演なし/終演予定8:15pm)



指揮 熊倉 優



指揮：熊倉 優 フルート：神田寛明 (N響首席フルート奏者)  
ナビゲーター：大林奈津子

発売開始 5月17日(水) 11:00am (N響定期会員先行発売:5月11日(木) 11:00am)

前売所

◎WEBチケットN響 6/27(火)まで <https://ticket.nhks.or.jp>  
6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp>

◎N響ガイド 6/27(火)まで 03-5793-8161, 6/29(木)から 0570-02-9502

◎チケットぴあ [pia.jp/t/nhks](https://pia.jp/t/nhks) ◎e+ (イープラス) [eplus.jp/nhks](https://eplus.jp/nhks)

◎ローソンチケット [1-tike.com/nhks](https://1-tike.com/nhks)

※ユースチケットはN響ガイドに電話でお申し込みください(7月上旬よりWEBチケットN響でもご購入いただけます)。

事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります。詳しくは、N響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売は、WEBチケットN響・N響ガイドのみの取り扱いとなります。※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前となります。※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる

場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。※未就学児のご入場はお断りしています。

※公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ：N響ガイド 6/27(火)まで 03-5793-8161

6/29(木)から 0570-02-9502

(営業日・営業時間はN響ホームページ  
ご確認ください)

主催：NHK/NHK交響楽団 Follow us on no+e [nhkso.or.jp](https://nhkso.or.jp)

2023年9月開幕の「N響2023-24シーズン定期公演」を前に  
行われるのがこのコンサート。選りすぐりの聴きどころを75分  
間にギュッと詰め込んでお贈りします。オーケストラは初めてと  
いう方、どの演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員  
を続けられてきた方、とにかく手取り早くオーケストラの名  
曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。みんな連れだって  
NHKホールに足をお運びください。

定期公演ってなあに？

プロのオーケストラにとって「定期公演」は活動の中心となる大切なコンサート。N響では  
1927年に第1回が行われ、2023-24シーズン中の2023年12月に第2000回を迎えます。  
A・B・Cの3つのシリーズ毎に年間9回各2日ずつ、合計年間54公演にわたって世界的な指揮  
者・ソリストたちと演奏を繰り広げます。

コダーイ/組曲「ハーリ・ヤーノシュ」—「ウィーン音楽時計」(11月C)

R. シュトラウス/交響的幻想曲「イタリアから」

—第4楽章「ナポリの人の生活」(9月A)

チャイコフスキー/バレエ音楽「眠りの森の美女」—「ワルト」(11月A)

モーツァルト/フルート協奏曲 第2番 ニ長調 — 第2楽章(9月B)

ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「ワルキューレの騎行」(9月C)

ニルセン/アラジン組曲—「イスファハンの市場」(10月C)

イベール/寄港地—「パレンシア」(6月C)

レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」—「主顕祭」(5月A)

料金(税込/全席指定)

1階から3階まで1ランク設定  
良席はお早めに

一般：¥1,800 / 定期会員：¥1,200

25歳以下はさらにお得 /

ユースチケット(25歳以下) ¥500

お得にみんなでNHKホールに /

ウェルカム・ペアチケット

(2枚1組)：¥2,000

※一般・定期会員共通料金



ピアノ  
北村 朋幹  
Tomoki Kitamura, piano

# N響 「夏」

Summer Concert  
2023

## 2023 東京公演

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

主催：NHK / NHK交響楽団 協賛：岩谷産業株式会社

2023年 7月21日(金) 7:00pm

NHKホール

Friday, July 21, 2023 7:00p.m. NHK Hall

ウェーバー

歌劇「魔弾の射手」序曲

Weber *Der Freischütz*, opera-Overture

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491

Mozart *Piano Concerto No. 24 C Minor K. 491*

シューマン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

Schumann *Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, Rheinische Sinfonie*

ふたりの若き俊英が贈る

魅惑のドイツ音楽

指揮

熊倉 優

Masaru Kumakura, conductor

©堀田力丸

発売開始 5月17日(水) 11:00am

(N響定期会員先行発売：5月11日(木)11:00am)

料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥7,300 A: ¥5,300 B: ¥3,300 C: ¥2,100

[ユースチケット] S: ¥5,200 A: ¥3,800 B: ¥2,350 C: ¥1,500  
(25歳以下)

お問い合わせ ※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください

N響ガイド [6月27日(火)まで] 03-5793-8161

[6月29日(木)から] 0570-02-9502

Follow us on

[nhkso.or.jp](http://nhkso.or.jp)



# 水素で世界を動かせ。

**Iwatani**  
岩谷産業株式会社

指揮：ライアン・ウィグレスワース  
Ryan Wigglesworth, conductor

尺八：藤原道山  
Dozan Fujiwara, shakuhachi

ヴァイオリン：金川真弓  
Mayumi Kanagawa, violin

三味線：本條秀慈郎  
Hidejiro Honjoh, shamisen

管弦楽：NHK交響楽団  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

TOKYO  
OPERA  
CITY

# N響 MUSIC TOMORROW 2023

June 27 (Tuesday) 7:00pm  
Otaka Award Ceremony / Pre-Concert Talk 6:30pm  
Tokyo Opera City Concert Hall

2023年6月27日 火 7:00pm | 尾高賞授賞式・プレトーク 6:30pm  
東京オペラシティ コンサートホール

藤倉 大 / 尺八協奏曲(2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]  
Fujikura / Shakuhachi Concerto [The 70th Otaka Award Work]

一柳 慧 / ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲(2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]  
Ichiyanagi / Double Concerto for Violin and Shamisen with Strings and Percussion [The 70th Otaka Award Work]

スルンカ / スーパーオーガニズム(2022)  
[NHK交響楽団 / ベルリン・フィル / ロサンゼルスフィル / パリ管弦楽団 / チェコフィル共同委嘱作品・世界初演]  
Srnka / Superorganisms [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Berliner Philharmoniker, LA Phil, Orchestre de Paris and Czech Philharmonic / World Première]

## チケット発売中

### チケット料金(税込)

◎ 一般 | S:3,500円 / A:2,500円 / B:1,500円

◎ WEBチケットN響 特別料金 | S:3,000円 / A:2,000円 / B:1,000円

- ・車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください
- ・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります

## 前売所

- ・WEBチケットN響(手数料無料) : <https://ticket.nhkso.or.jp>
- ・N響カネド: 03-5793-8161
- ・東京オペラシティ チケットセンター: 03-5353-9999
- ・チケットぴあ: [pia.jp/t/nhkso](https://pia.jp/t/nhkso)
- ・e+(イープラス) : [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso)
- ・ローンチケット: [l-tike.com/nhkso](https://l-tike.com/nhkso)

峻厳な遺作、趣深い和楽器協奏曲、  
スター作曲家の世界初演作  
私たちの音楽体験を  
アップデートする3つの新作たち。

今年のMusic Tomorrowでは、前半に本シリーズの軸となる尾高賞受賞作品2作、後半にミロ斯拉フ・スルンカの《スーパーオーガニズム》が演奏される。《ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲》は一柳の絶筆となったが、遺作への贈賞は今回が初となる。時代の先端をつなげる志向し、晩年に至っても若手音楽家と交流し続けた一柳の功績を思い返しつつ、ヴァイオリン、三味線、管弦楽が絶妙な距離感で対峙する。本作の峻厳な音世界を堪能したい。古典的レパートリーでの繊密かつ情感ゆたかな演奏を得意とする若手、金川真弓の演奏も注目される。

他方今年46歳になる藤倉は、死去時の一柳のほぼ半分の年齢でありながら、今回の受賞が4作品目となる。《尺八協奏曲》では、尺八の伸びやかかつ真摯なモノログ、それに寄り添い多層的で広がりのある響きを作りだす管弦楽とのやり取りが味わい深い。邦楽器奏者の近年の活躍ぶりを証する2作だ。

チェコ出身のスルンカは2016年、ベトレンコが指揮し、ヴァイゾンとハンボンが主役を歌って初演されたオペラ《南極》の成功により、一躍スターダムにのし上がった。同郷のドヴォルザークとヤナーチェクに敬意を払いつつ、一作ごとに作曲法を模索し、構造と響きを緻密に設計するスルンカの音楽はしかし、彩霊のような浮遊感と中間色をたたく、ときに夢幻性さえ漂わせる。ヨーロッパ現代音楽界の最前線に立つ作曲家の新作が世界で初めて鳴り響く、希有な瞬間に立ち会いたい。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

- 2時間超の公演となります(休憩20分あり)
- 未就学児の入場はお断りしています
- チケットのご購入・ご来場の際は、N響ホームページに掲載の感染症予防対策についてのご案内(下記のURLのおよびQRコードのリンク先)を必ずお読みください
- やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

主催：NHK / NHK交響楽団  
共催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団  
助成：公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人 アフィニス文化財団

[nhkso.or.jp](https://nhkso.or.jp) | Follow us on



[nhkso.or.jp/  
news/20200710\\_2.html](https://nhkso.or.jp/news/20200710_2.html)

# 脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

## 水素&LPガスシェアNo.1\*

\*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

**Iwatani**  
岩谷産業株式会社